佐久市埋蔵文化財調査報告書　第24集

長土呂遺跡群

上聖端遺跡

KAMIHIJIRIBATA SITE

長野県佐久市長土呂上聖端遺跡発掘調査報告書

1993

佐　久　市
佐久市教育委員会

長土呂遺跡群

上聖端遺跡

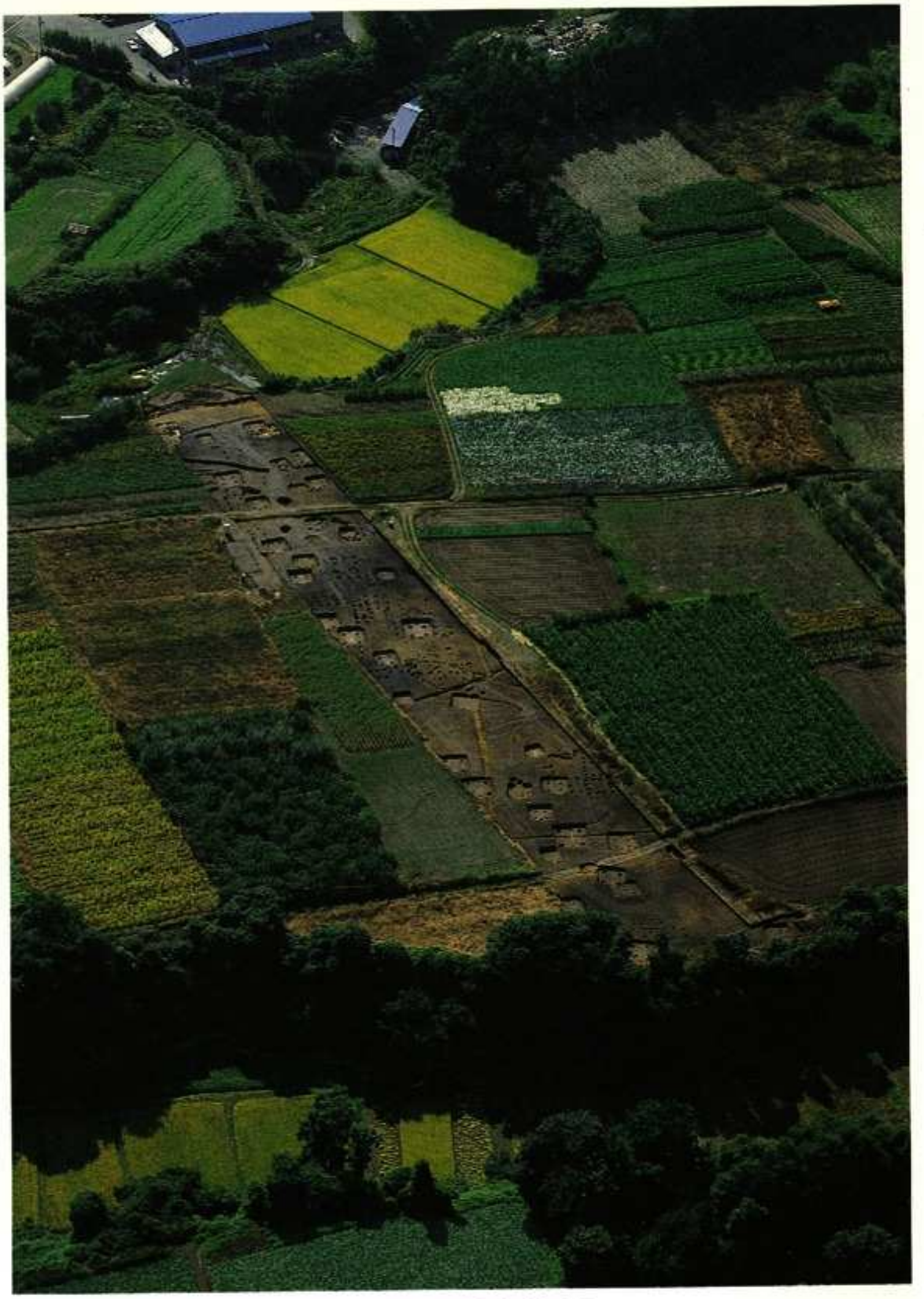
KAMIHIJIRIBATA SITE

長野県佐久市長土呂上聖端遺跡発掘調査報告書

1993

佐　久　市
佐久市教育委員会

富士山麓・聖原遺跡遠景



空からみた上聖端遺跡（北から）

H１号住居址カマド

H42号住居址カマド

カマドに使用された「枕」形土製品（H３号住居址）

例　言

1．本書は、昭和63年度市道１－１号線道路改良工事事業に伴い事前調査された、長土呂遺跡群・上聖端遺跡の発掘調査報告書である。

2．本調査は、佐久市土木課の委託を受け、佐久市教育委員会の委託を受けた佐久埋蔵文化財調査センターが実施した。

3．発掘調査地籍は、佐久市大字長土呂 113-2・125・127・128・140-1・140-2 他に所在する。

4．発掘調査面積は5,000㎡であり、昭和63年５月11日から10月10日の期間で発掘調査を行い、平成４年４月１日から平成５年３月31日の期間で報告書を作成した。

5．事務局の構成

(1) 発掘調査体制　(昭和63年度)	(2) 報告書作成体制　(平成４年度)
事務局　佐久埋蔵文化財調査センター	事務局　佐久市教育委員会
所　長　西沢正巳	教育長　大井季夫
庶務係　畠山俊彦（係長）	教育次長　奥原秀雄
調査係　高村博文（主任）	埋蔵文化財課長　上原正秀
三石宗一、木内晶義、小山岳夫	管理係　桜井牧子（係長）
須藤隆司、小林眞寿、翠川康弘	埋蔵文化財係　草間芳行（係長）
竹原　学、助川朋広	林　幸彦、高村博文、三石宗一
	須藤隆司、小林眞寿、羽毛田卓也

6．調査団の構成

団　　長：黒岩忠男（佐久考古学会副会長）
調査指導者：白倉盛男（佐久考古学会副会長）、林　幸彦、羽毛田卓也（佐久市教育委員会）
調査担当者：高村博文　**調査主任**：須藤隆司　**調査副主任**：三石宗一、助川朋広
調査補助者：木内晶義　**調査補助員**：小林幸子、宮川百合子　**調査協力者**：五十嵐勝吉、井手愛子 井手つねじ、上原あや子、大井キセ、小田川栄、小田川時江、榎沢三之助、Ｃ．クリストファー 小山林一、関口正、田中智恵子、角田時、角田とく、角田良夫、花里きしの、樋田咲江、村松とみ子 茂木とよ子、森泉欽一、森泉源治朗、森泉好治、柳沢千波、柳沢豊子、渡辺まさじ（地元協力者） 有沢保晴、香山優子、公文良成、神津岳泉、里見英司、塩川伸幸、関由美子、田島和美、別府俊克 堀籠英和、三石勢治、三浦洋崇、道上卓美、谷津和彦、柳沢利明、柳橋章示、依田直樹（大学生・専門学校生）、庄野達也、畑浩治、花里正樹、古舘寛亮、中澤直樹、荒木正博（高校生）

7．本書作成における遺物復原・遺物実測・遺物トレース・遺構トレース作業は、堀益子、遠藤しずか、並木ことみ、羽毛田香里、橋詰勝子、橋詰けさよ、橋詰信子、渡辺久実子、石井美鈴、花里香代子（**整理調査員**）が行い、石材鑑定は羽毛田卓也、遺物写真撮影は草間芳行が行った。

8．本書の編集・執筆は須藤隆司が行った。なお、堤隆氏（御代田町教育委員会）に土器様相に関する御助言を頂いた。厚く御礼申し上げる次第である。

9．本書および出土遺物、記録類はすべて佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡　例

1．遺跡の略称は、長上呂遺跡群上聖端遺跡→ＮＮＫである。

2．遺構の略称は次のとおりである。

Ｈ→竪穴住居址　　Ｔａ→竪穴状遺構　　Ｄ→土坑　　Ｆ→掘立柱建物址　　Ｍ→溝状遺構

3．遺構ナンバーは、一部改変があるが基本的に調査時に付したものであり時代順ではない。

4．挿図の縮尺

竪穴住居址・掘立柱建物址・竪穴状遺構＝１：80、カマド＝１：30、土坑＝１：60、溝状遺構＝１：120、土器・石器実測図＝１：４、鉄器実測図＝１：２を基本とし、他に石器・土製品には１：１～３、２：３等があり、それらは各図毎に示してある。

5．遺構写真の縮尺は任意で、遺物写真は概ね挿図の縮尺と同じである。

6．挿図中のスクリーントーン・記号による表示は基本的に下記のものを表す。

遺構断面およびセクション図中のローム層＝斜線、粘土＝網目太点、焼土＝網目細点、土師器内面黒色処理＝網目細点、須恵器断面＝網目太点、砥石使用面＝網目太点、土器分布＝●
石器分布＝▲、鉄器分布＝■、土器＝Ｐ、石＝Ｓ、炭化材＝Ｃ、骨＝Ｂ、それ以外は各図毎に示してある。

7．遺構面積の計測にはプラニメーターを用い、計測３回の平均値が遺構面積として示してある。

8．土器観察表の法量は、上から口径、底径、器高の順に記載し、完全値以外では、不明が　－　推定値に（　）、現存値に〈　〉を付してある。単位はcm。石器・金属器観察表の法量は、完全値以外では、現存値に（　）を付してある。単位はcmおよびｇ。

9．土器胎土の色調は、『新版標準土色帖』の表示に基づいている。

目　次

例言
凡例
目次
Ⅰ　調査の概要……1
(1) 調査に至る経過……3　(2) 調査の経過……4　(3) 遺跡の立地と周辺の遺跡・6
(4) 層序……7　(5) 上聖端遺跡と聖原遺跡……8
Ⅱ　竪穴住居址……13
(1) Ｈ１号住居址……15　(2) Ｈ２号住居址……21　(3) Ｈ３号住居址……26
(4) Ｈ４号住居址……31　(5) Ｈ５号住居址……36　(6) Ｈ６号住居址……39
(7) Ｈ７号住居址……43　(8) Ｈ８号住居址……44　(9) Ｈ９号住居址……48
(10) H10号住居址……53　(11) H11号住居址……56　(12) H12号住居址……64
(13) H13号住居址……70　(14) H14号住居址……73　(15) H15号住居址……77
(16) H16号住居址……82　(17) H17号住居址……89　(18) H18号住居址……90
(19) H19号住居址……91　(20) H20号住居址……95　(21) H21号住居址……99
(22) H22号住居址……107　(23) H25号住居址……111　(24) H26号住居址……115
(25) H27号住居址……120　(26) H28号住居址……123　(27) H30号住居址……129
(28) H31号住居址……132　(29) H32号住居址……134　(30) H33号住居址……135
(31) H34号住居址……140　(32) H35号住居址……144　(33) H36号住居址……148
(34) H37号住居址……152　(35) H38号住居址……156　(36) H39号住居址……159
(37) H40号住居址……164　(38) H41号住居址……168　(39) H42号住居址……170
(40) H43号住居址……176　(41) H44号住居址……178　(42) H45号住居址……181
(43) H46号住居址……186　(44) H47号住居址……189
Ⅲ　竪穴状遺構・土坑……191
(1) Ｔａ１号竪穴状遺構…193　(2) Ｔａ２号竪穴状遺構…194　(3) Ｄ１号土坑……195
(4) Ｄ２号土坑……197
Ⅳ　掘立柱建物址……201
(1) Ｆ１号掘立柱建物址…203　(2) Ｆ２号掘立柱建物址…204　(3) Ｆ３号掘立柱建物址…205
(4) Ｆ４号掘立柱建物址…205　(5) Ｆ５号掘立柱建物址…206　(6) Ｆ６号掘立柱建物址…207
(7) Ｆ７号掘立柱建物址…208　(8) Ｆ９号掘立柱建物址…209　(9) Ｆ11号掘立柱建物址…210
(10) F13号掘立柱建物址…211　(11) F14号掘立柱建物址…212　(12) F15号掘立柱建物址…213
(13) F16号掘立柱建物址…214　(14) F17号掘立柱建物址…215　(15) Ｆ８号掘立柱建物址…216
(16) F10号掘立柱建物址…216　(17) F12号掘立柱建物址…217　(18) F18号掘立柱建物址…217
(19) F19号掘立柱建物址…218
Ⅴ　溝状遺構……219

挿図目次

第1図 上聖端遺跡の位置……1
第4図 基本層序……7
第7図 上聖端・聖原遺跡遺構分布図……12
第10図 H1号住居址カマド実測図……16
第13図 H1号住居址出土石器……19
第16図 H2号住居址遺物分布図……23
第19図 H3号住居址実測図……26
第22図 H4号住居址実測図……31
第25図 H4号住居址出土土器……34
第28図 H5号住居址遺物分布図……37
第31図 H6号住居址カマド実測図……40
第34図 H7号住居址実測図……43
第37図 H8号住居址カマド実測図……45
第40図 H8号住居址石器・土製品……47
第43図 H9号住居址出土土器……51
第46図 H10号住居址カマド実測図……54
第49図 H11号住居址カマド実測図……57
第52図 H11号住居址出土石器……60
第55図 H12号住居址遺物分布図……66
第58図 H13号住居址実測図……70
第61図 H13号住居址出土石器……72
第64図 H14号住居址出土土器……75
第67図 H15号住居址カマド実測図……78
第70図 H15号住居址出土土器……81
第73図 H16号住居址出土土器Ⅰ……84
第76図 H16号住居址出土石器……86
第79図 H18号住居址実測図……90
第82図 H19号住居址カマド実測図……92
第85図 H20号住居址実測図……95
第88図 H20号住居址出土土器……97
第91図 H21号住居址カマド実測図……100
第94図 H21号住居址出土石器・鉄器……106
第97図 H22号住居址出土土器……109
第100図 H25号住居址実測図……111
第103図 H25号住居址出土石器……114
第106図 H26号住居址出土土器……117
第109図 H27号住居址実測図……120
第112図 H28号住居址実測図……123
第115図 H28号住居址出土土器……126
第118図 H30号住居址カマド実測図……130
第121図 H31号住居址出土土器……133
第124図 H33号住居址実測図……135
第127図 H33号住居址出土土器……138
第130図 H34号住居址カマド実測図……141
第133図 H35号住居址実測図……144
第136図 H35号住居址遺物分布図……147
第139図 H36号住居址カマド実測図……149
第142図 H37号住居址カマド実測図……153
第145図 H37号住居址遺物分布図……155
第148図 H38号住居址出土土器……158
第151図 H39号住居址出土土器……161
第154図 H40号住居址実測図……164
第157図 H40号住居址出土石器……166
第160図 H41号住居址出土土器……169
第163図 H42号住居址遺物分布図……172
第166図 H43号住居址実測図……176
第2図 上聖端遺跡発掘区……3
第5図 上聖端遺跡遺構分布図……9
第8図 竪穴住居址の分布……13
第11図 H1号住居址遺物分布図……17
第14図 H2号住居址実測図……21
第17図 H2号住居址出土土器……24
第20図 H3号住居址出土土器Ⅰ……28
第23図 H4号住居址カマド実測図……32
第26図 H4号住居址出石器……35
第29図 H5号住居址出土土器……37
第32図 H6号住居址出土土器……41
第35図 H7号住居址出土土器……43
第38図 H8号住居址遺物分布図……46
第41図 H9号住居址実測図……48
第44図 H9号住居址出土石器……51
第47図 H10号住居址出土土器……55
第50図 H11号住居址遺物分布図……58
第53図 H12号住居址実測図……64
第56図 H12号住居址出土土器……67
第59図 H13号住居址カマド実測図……71
第62図 H14号住居址実測図……73
第65図 H14号住居址出土石器……75
第68図 H15号住居址遺物分布図……79
第71図 H16号住居址実測図……82
第74図 H16号住居址出土土器Ⅱ……85
第77図 H17号住居址実測図……89
第80図 H18号住居址出土土器……90
第83図 H19号住居址出土土器……93
第86図 H20号住居址カマド実測図……96
第89図 H20号住居址出土石器……98
第92図 H21号住居址出土土器Ⅰ……102
第95図 H22号住居址実測図……107
第98図 H22号住居址遺物分布図……110
第101図 H25号住居址カマド実測図……112
第104図 H26号住居址実測図……115
第107図 H26号住居址遺物分布図……118
第110図 H27号住居址カマド実測図……121
第113図 H28号住居址カマド実測図……124
第116図 H28号住居址出土石器……127
第119図 H30号住居址出土土器……131
第122図 H32号住居址実測図……134
第125図 H33号住居址カマド実測図……136
第128図 H33号住居址出土石器……139
第131図 H34号住居址遺物分布図……142
第134図 H35号住居址カマド実測図……145
第137図 H36号住居址実測図……148
第140図 H36号住居址出土土器……150
第143図 H37号住居址出土土器……154
第146図 H38号住居址実測図……156
第149図 H39号住居址実測図……159
第152図 H39号住居址出土石器……162
第155図 H40号住居址カマド実測図……165
第158図 H40号住居址遺物分布図……167
第161図 H42号住居址実測図……170
第164図 H42号住居址出土土器……173
第167図 H43号住居址出土土器……177
第3図 上聖端遺跡グリッド設定図……5
第6図 上聖端・聖原遺跡発掘区……11
第9図 H1号住居址実測図……15
第12図 H1号住居址出土土器……18
第15図 H2号住居址カマド実測図……22
第18図 H2号住居址出土石器……24
第21図 H3号住居址出土土器Ⅱ……29
第24図 H4号住居址遺物分布図……33
第27図 H5号住居址実測図……36
第30図 H6号住居址実測図……39
第33図 H6号住居址出土石器……42
第36図 H8号住居址実測図……44
第39図 H8号住居址出土土器……46
第42図 H9号住居址カマド実測図……50
第45図 H10号住居址実測図……53
第48図 H11号住居址実測図……56
第51図 H11号住居址出土土器……59
第54図 H12号住居址カマド実測図……65
第57図 H12号住居址出土石器・鉄器……68
第60図 H13号住居址出土土器……72
第63図 H14号住居址カマド実測図……74
第66図 H15号住居址実測図……77
第69図 H15号住居址出土土器……80
第72図 H16号住居址カマド実測図……83
第75図 H16号住居址遺物分布図……85
第78図 H17号住居址出土遺物……89
第81図 H19号住居址実測図……91
第84図 H19号住居址遺物分布図……94
第87図 H20号住居址遺物分布図……97
第90図 H21号住居址実測図……99
第93図 H21号住居址出土土器Ⅱ……103
第96図 H22号住居址カマド実測図……108
第99図 H22号住居址出土石器・鉄器……110
第102図 H25号住居址出土土器……113
第105図 H26号住居址カマド実測図……116
第108図 H26号住居址出土石器・鉄器……118
第111図 H27号住居址出土土器……122
第114図 H28号住居址遺物分布図……125
第117図 H30号住居址実測図……129
第120図 H31号住居址実測図……132
第123図 H32号住居址出土土器……134
第126図 H33号住居址遺物分布図……137
第129図 H34号住居址実測図……140
第132図 H34号住居址出土土器……143
第135図 H35号住居址出土土器……146
第138図 H36号住居址出土石器……148
第141図 H37号住居址実測図……152
第144図 H37号住居址出土鉄器……154
第147図 H38号住居址カマド実測図……157
第150図 H39号住居址カマド実測図……160
第153図 H39号住居址遺物分布図……163
第156図 H40号住居址出土土器……166
第159図 H41号住居址実測図……168
第162図 H42号住居址カマド実測図……171
第165図 H42号住居址出土石器……174
第168図 H43号住居址出土鉄器……177

第169図　H44号住居址実測図…… 178
第170図　H44号住居址出土土器…… 179
第171図　H44号住居址遺物分布図…… 179
第172図　H44号住居址出土土器…… 180
第173図　H45号住居址実測図…… 181
第174図　H45号住居址カマド実測図…… 182
第175図　H45号住居址出土土器…… 183
第176図　H45号住居址出土石器・鉄器…… 184
第177図　H45号住居址遺物分布図…… 185
第178図　H46号住居址実測図…… 186
第179図　H46号住居址遺物分布図…… 187
第180図　H46号住居址出土土器…… 188
第181図　H46号住居址出土鉄器…… 188
第182図　H47号住居址実測図…… 189
第183図　H47号住居址出土土器…… 189
第184図　上聖端・聖原遺跡南穴分布…… 191
第185図　D 2号住居址出土33号住居址間接合の土器…… 192
第186図　Ta 1号竪穴状遺構実測図…… 193
第187図　Ta 1号竪穴状遺構出土土器…… 193
第188図　Ta 2号竪穴状遺構実測図…… 194
第189図　Ta 2号竪穴状遺構出土土器…… 194
第190図　D 1号土坑実測図…… 195
第191図　縄文時代の石器…… 196
第192図　D 2号土坑実測図…… 197
第193図　D 2号土坑出土土器…… 198
第194図　縄文住建物分の分布…… 201
第195図　F 1号掘立柱建物址実測図…… 203
第196図　F 2号掘立柱建物址実測図…… 204
第197図　F 3号掘立住建物址実測図…… 205
第198図　F 4号掘立住建物址実測図…… 205
第199図　F 5号掘立住建物址実測図…… 206
第200図　F 6号掘立住建物址実測図…… 207
第201図　F 7号掘立住建物址実測図…… 208
第202図　F 9号掘立住建物址実測図…… 209
第203図　F 11号掘立住建物址実測図…… 210
第204図　F 13号掘立住建物址実測図…… 211
第205図　F 14号掘立住建物址実測図…… 212
第206図　F 15号掘立住建物址実測図…… 213
第207図　F 16号掘立住建物址実測図…… 214
第208図　F 17号掘立住建物址実測図…… 215
第209図　F 18号掘立住建物址実測図…… 217
第210図　F 19号掘立住建物址実測図…… 216
第211図　F 12号掘立住建物址実測図…… 217
第212図　F 20号掘立住建物址実測図…… 217
第213図　H 1号住居址実測図…… 218
第214図　構状遺構の分布…… 219
第215図　構状遺構実測図…… 221
第216図　M11号溝状遺構出土土器Ⅰ…… 223
第217図　M11号溝状遺構出土土器Ⅱ…… 224

写真目次

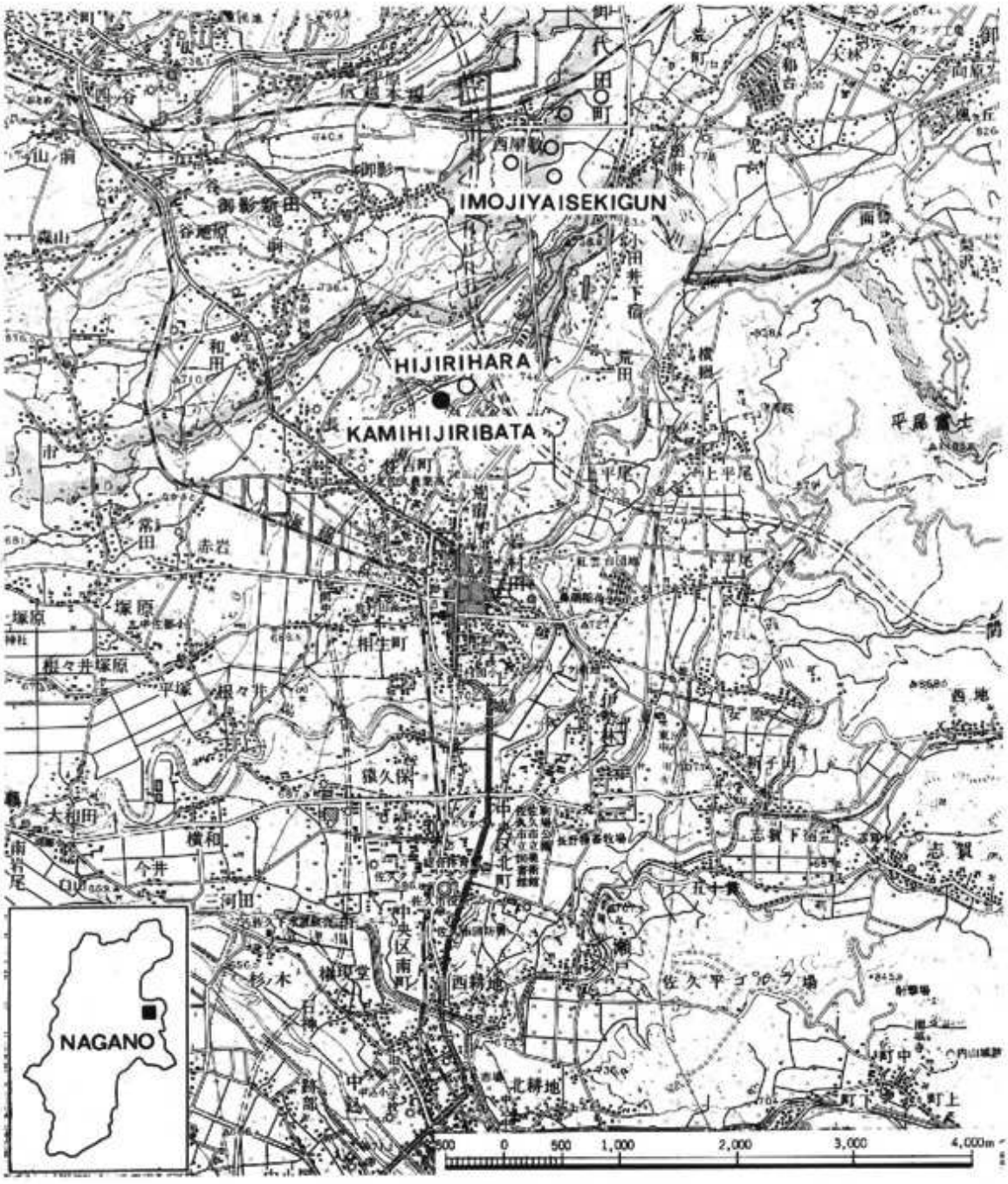
写真1　調査風景…… 4
写真2　上聖端遺跡航空写真…… 6
写真3　調査区北西隅の層序…… 7
写真4　調査区中央の層序…… 7
写真5　上聖端・聖原遺跡…… 8
写真6　上聖端遺跡航空写真…… 10
写真7　H 1号住居址…… 15
写真8　H 1号住居址カマド…… 16
写真9　西南隅の遺物出土状態…… 17
写真10　北東隅の遺物出土状態…… 17
写真11　H 1号住居址遺物…… 20
写真12　H 2号住居址…… 21
写真13　H 2号住居址カマド…… 22
写真14　H 2号住居址遺物出土状態…… 23
写真15　土器6出土状態…… 23
写真16　H 2号住居址出土遺物…… 25
写真17　H 3号住居址…… 26
写真18　H 3号住居址カマド…… 27
写真19　H 3号住居址遺物出土状態…… 27
写真20　H 3号住居址出土遺物…… 30
写真21　H 4号住居址…… 31
写真22　H 4号住居址カマド…… 32
写真23　H 4号住居址遺物出土状態…… 33
写真24　土器3出土状態…… 33
写真25　土器4出土状態…… 33
写真26　土器7出土状態…… 33
写真27　H 4号住居址出土遺物…… 35
写真28　H 5号住居址…… 36
写真29　H 5号住居址出土遺物…… 38
写真30　土器4出土状態…… 39
写真31　H 6号住居址…… 39
写真32　H 6号住居址カマド…… 40
写真33　H 6号住居址出土遺物…… 42
写真34　H 7号住居址…… 43
写真35　H 7号住居址出土遺物…… 43
写真36　H 8号住居址…… 44
写真37　H 8号住居址カマド…… 45
写真38　集石出土状態…… 46
写真39　土器2出土状態…… 46
写真40　H 8号住居址出土遺物…… 47
写真41　H 9号住居址…… 49
写真42　H 9号住居址周溝…… 49
写真43　土器1出土状態…… 49
写真44　H 9号住居址カマド…… 50
写真45　H 9号住居址出土遺物…… 52
写真46　H10号住居址…… 53
写真47　H10号住居址カマド…… 54
写真48　H10号住居址出土遺物…… 55
写真49　H11号住居址…… 56
写真50　H11号住居址カマド…… 57
写真51　鋼物石出土状態…… 58
写真52　H11号住居址出土土器…… 62
写真53　H11号住居址出土石器…… 63
写真54　H12号住居址…… 64
写真55　H12号住居址カマド…… 65
写真56　土器5出土状態…… 66
写真57　H12号住居址出土遺物…… 69
写真58　H13号住居址…… 70
写真59　H13号住居址カマド…… 71
写真60　H13号住居址出土遺物…… 72
写真61　H14号住居址カマド…… 74
写真62　H14号住居址…… 76
写真63　H14号住居址出土遺物…… 76
写真64　H15号住居址覆土…… 77
写真65　H15号住居址…… 78
写真66　カヤ状炭化材出土状態…… 79
写真67　H15号住居址出土土器…… 80
写真68　H15号住居址出土石器…… 81
写真69　H16号住居址…… 82
写真70　H16号住居址カマド…… 83
写真71　H16号住居址出土遺物Ⅰ…… 87
写真72　H16号住居址出土遺物Ⅱ…… 88
写真73　H17号住居址…… 89
写真74　H18号住居址…… 90
写真75　H19号住居址…… 91
写真76　H19号住居址カマド…… 92
写真77　土器8・10出土状態…… 94
写真78　H19号住居址出土遺物…… 94
写真79　H20号住居址…… 95
写真80　H20号住居址カマド…… 96
写真81　H20号住居址出土遺物…… 98
写真82　東壁石列…… 99
写真83　西壁石列…… 99
写真84　カマド煙道の上器…… 100
写真85　H21号住居址カマド…… 100
写真86　H21号住居址…… 101
写真87　H21号住居址出土土器…… 105
写真88　H21号住居址出土石器・鉄器…… 106
写真89　H22号住居址…… 107
写真90　H22号住居址カマド…… 108
写真91　H22号住居址出土遺物…… 110
写真92　H25号住居址覆土…… 111
写真93　H25号住居址カマド…… 112
写真94　H25号住居址…… 114
写真95　H25号住居址出土遺物…… 114
写真96　H26号住居址…… 115
写真97　H26号住居址カマド…… 116
写真98　H26号住居址出土遺物…… 119
写真99　H27号住居址…… 120
写真100　H27号住居址カマド…… 121
写真101　H27号住居址出土遺物…… 122
写真102　土器1出土状態…… 122
写真103　土器2出土状態…… 122
写真104　H28号住居址…… 123
写真105　土器4出土状態…… 124
写真106　鋼物石出土状態…… 125
写真107　土器6出土状態…… 125
写真108　H28号住居址出土遺物…… 128
写真109　H30号住居址…… 129
写真110　H30号住居址カマド…… 130
写真111　H30号住居址出土遺物…… 131
写真112　H31号住居址…… 132
写真113　H31号住居址出土遺物…… 133
写真114　H32号住居址…… 134

写真115　H32号住居址出土遺物…… 134
写真116　H33号住居址…… 135
写真117　H33号住居址カマド…… 136
写真118　P10遺物出土状態…… 137
写真119　土器1出土状態…… 137
写真120　H33号住居址出土遺物…… 138
写真121　H34号住居址…… 140
写真122　H34号住居址カマド…… 141
写真123　H34号住居址遺物出土状態…… 142
写真124　土器5の出土状態…… 142
写真125　H34号住居址…… 143
写真126　H35号住居址出土遺物…… 144
写真127　H35号住居址カマド…… 145
写真128　H35号住居址…… 147
写真129　H36号住居址カマド…… 149
写真130　H36号住居址…… 151
写真131　H36号住居址出土遺物…… 151
写真132　H37号住居址…… 152
写真133　カマド煙道の土器…… 153
写真134　H37号住居址カマド…… 153
写真135　土器3出土状態…… 155
写真136　土器4出土状態…… 155
写真137　土器2・5出土状態…… 155
写真138　H37号住居址出土遺物…… 155
写真139　H38号住居址…… 156
写真140　H38号住居址カマド…… 157
写真141　H38号住居址出土遺物…… 158
写真142　H39号住居址…… 159
写真143　カマド煙道の土器…… 160
写真144　H39号住居址カマド…… 160
写真145　H39号住居址出土石器…… 162
写真146　編物石出土状態…… 163
写真147　土器2出土状態…… 163
写真148　H39号住居址出土器…… 163
写真149　H40号住居址…… 164
写真150　H40号住居址カマド…… 165
写真151　土器3・6出土状態…… 167
写真152　土器4出土状態…… 167
写真153　H40号住居址出土遺物…… 167
写真154　H41号住居址…… 168
写真155　H41号住居址出土遺物…… 169
写真156　H42号住居址カマド…… 170
写真157　カマド煙道の土器…… 171
写真158　カマド左袖の石組…… 171
写真159　カマド右袖の石組…… 171
写真160　H42号住居址出土遺物…… 175
写真161　H43号住居址出土遺物…… 176
写真162　鉄器5の出土状態…… 177
写真163　H44号住居址…… 178
写真164　H44号住居址出土遺物…… 180
写真165　H45号住居址…… 181
写真166　H45号住居址カマド…… 182
写真167　H45号住居址出土遺物…… 185
写真168　H46号住居址出土遺物…… 186
写真169　住居中央獣骨出土状態…… 187
写真170　住居南東隅獣骨出土状態…… 187
写真171　H47号住居址…… 189
写真172　Ta1号竪穴状遺構…… 193
写真173　Ta1号竪穴状遺構出土土器…… 193
写真174　Ta2号竪穴状遺構…… 194
写真175　Ta2号竪穴状遺構出土土器…… 194
写真176　D1号土坑…… 195
写真177　縄文時代の石器…… 196
写真178　D2号土坑遺物出土状態…… 199
写真179　D2号土坑…… 199
写真180　土器10出土状態…… 199
写真181　D2号土坑出土遺物…… 200
写真182　F1号掘立柱建物址…… 203
写真183　F2号掘立柱建物址…… 204
写真184　F3・4号掘立柱建物址…… 205
写真185　F5号掘立柱建物址…… 206
写真186　F6号掘立柱建物址…… 207
写真187　F7号掘立柱建物址…… 208
写真188　F9号掘立柱建物址…… 209
写真189　F11・12号掘立柱建物址…… 210
写真190　F13号掘立柱建物址…… 211
写真191　F14号掘立柱建物址…… 212
写真192　F15号掘立柱建物址…… 213
写真193　F16号掘立柱建物址…… 214
写真194　F17号掘立柱建物址…… 215
写真195　溝状遺構…… 222
写真196　M11号溝状遺構出土遺物…… 226

表　目　次

表1　H1号住居址出土土器観察表……19
表2　H1号住居址出土石器観察表……19
表3　H2号住居址出土土器観察表……24
表4　H2号住居址出土石器観察表……24
表5　H3号住居址出土土器観察表……29
表6　H4号住居址出土土器観察表……34
表7　H4号住居址出土石器観察表……35
表8　H5号住居址出土土器観察表……38
表9　H6号住居址出土土器観察表……41
表10　H6号住居址出土石器観察表……42
表11　H7号住居址出土土器観察表……43
表12　H8号住居址出土土器観察表……46
表13　H8号住居址石器・土製品観察表…47
表14　H9号住居址出土土器観察表……51
表15　H9号住居址出土石器観察表……51
表16　H10号住居址出土土器観察表……55
表17　H11号住居址出土土器観察表……61
表18　H11号住居址出土石器観察表……61
表19　H12号住居址出土土器観察表……68
表20　H12号住居址石器・鉄器観察表……68
表21　H13号住居址出土土器観察表……72
表22　H13号住居址出土石器観察表……72
表23　H14号住居址出土土器観察表……75
表24　H14号住居址出土石器観察表……75
表25　H15号住居址出土土器観察表……80
表26　H15号住居址出土石器観察表……81
表27　H16号住居址出土土器観察表……86
表28　H16号住居址出土石器観察表……86
表29　H17号住居址出土土器観察表……89
表30　H17号住居址出土石器観察表……89
表31　H18号住居址出土土器観察表……90
表32　H19号住居址出土土器観察表……93
表33　H20号住居址出土土器観察表……97
表34　H20号住居址出土石器観察表……98
表35　H21号住居址出土土器観察表……104
表36　H21号住居址石器・鉄器観察表…106
表37　H22号住居址出土土器観察表……109
表38　H22号住居址石器・鉄器観察表…110
表39　H25号住居址出土土器観察表……113
表40　H25号住居址出土石器観察表……114
表41　H26号住居址出土土器観察表……118
表42　H26号住居址石器・鉄器観察表…118
表43　H27号住居址出土土器観察表……122
表44　H28号住居址出土土器観察表……126
表45　H28号住居址出土石器観察表……127
表46　H30号住居址出土土器観察表……131
表47　H31号住居址出土土器観察表……133
表48　H32号住居址出土土器観察表……134
表49　H33号住居址出土土器観察表……138
表50　H33号住居址出土石器観察表……139
表51　H34号住居址出土土器観察表……143
表52　H35号住居址出土土器観察表……146
表53　H36号住居址出土土器観察表……148
表54　H36号住居址出土石器観察表……150
表55　H37号住居址出土土器観察表……154
表56　H37号住居址出土鉄器観察表……154
表57　H38号住居址出土土器観察表……158
表58　H39号住居址出土土器観察表……161
表59　H39号住居址出土石器観察表……162
表60　H40号住居址出土土器観察表……166
表61　H40号住居址出土石器観察表……169
表62　H41号住居址出土土器観察表……174
表63　H42号住居址出土土器観察表……177
表64　H42号住居址出土石器観察表……174
表65　H43号住居址出土土器観察表……177
表66　H43号住居址出土鉄器観察表……177
表67　H44号住居址出土土器観察表……180
表68　H45号住居址出土土器観察表……183
表69　H45号住居址石器・鉄器観察表…184
表70　H46号住居址出土土器観察表……188
表71　H46号住居址出土鉄器観察表……188
表72　H47号住居址出土土器観察表……189
表73　竪穴住居址一覧表……190
表74　Ta1号竪穴状遺構土器観察表……193
表75　Ta2号竪穴状遺構土器観察表……194
表76　縄文時代の石器観察表……196
表77　D2号土抗出土土器観察表……199
表78　M11号溝状遺構出土土器観察表…224

Ⅰ　調査の概要



第１図　上聖端遺跡の位置（１：50,000）

上型端遺跡の検出遺構

竪穴住居址	掘立柱建物址	竪穴状遺構	土　坑	溝状遺構
47 軒	21 棟	2 基	2 基	12 基

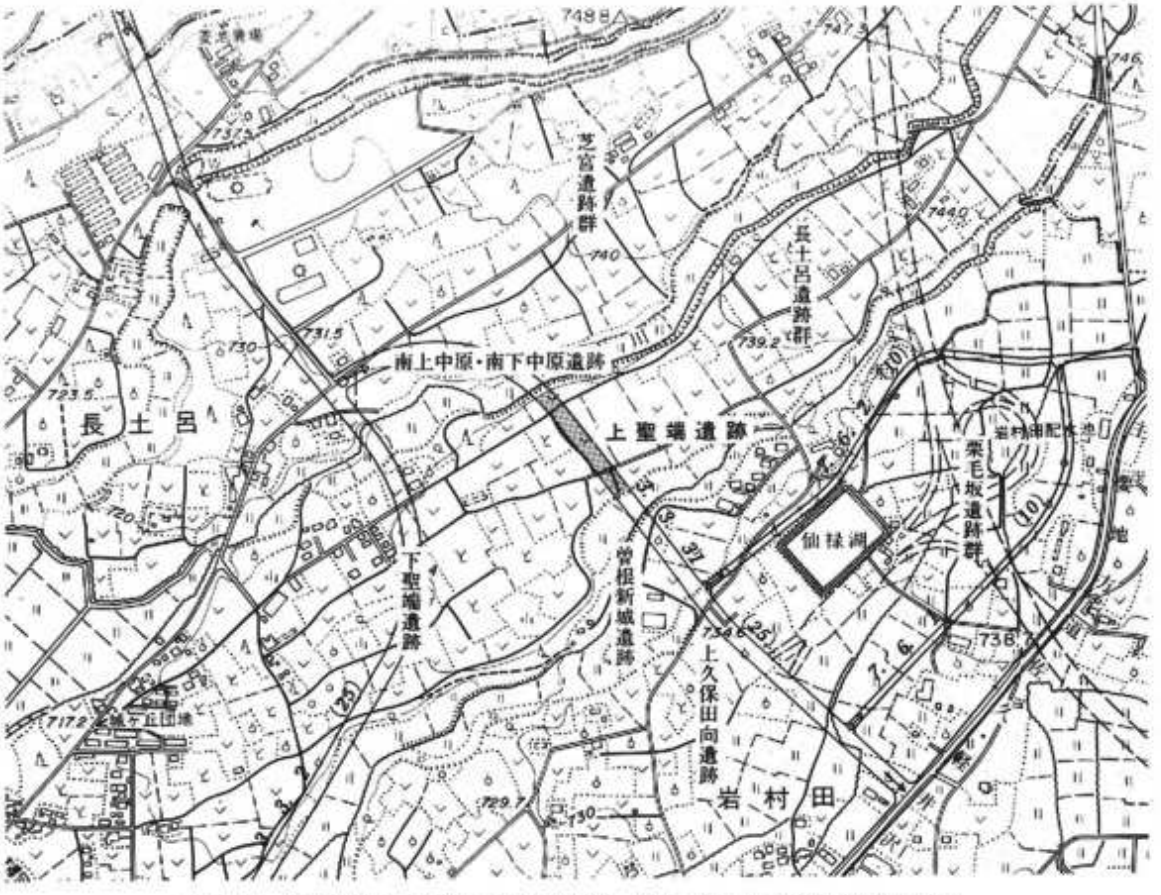
(1) 調査に至る経過

長土呂遺跡群上聖端遺跡は、浅間山に源を発する濁川と蟹沢の浸蝕によって形成された「田切り」地形に挟まれた南北に延びる台地上中央付近に位置し、佐久市大字長土呂地籍に所在する。

この台地では、昭和57・58年度に実施された佐久市遺跡詳細分布調査において、古墳時代から平安時代に至る多量の遺物が広範囲で採取されたことから、大規模な古代集落の存在が確信され、長土呂遺跡群として周知されていた。上聖端遺跡は、その中でも特に濃密な遺物分布が確認されていた地点であり、集落の中心的な位置を占める遺跡と考えられていた。

佐久市北部では、上信越自動車の建設によって、周辺地区の道路整備が緊急の課題とされてきた。それに即応するために佐久市土木課が市道1－1号線道路改良工事を実施する運びとなった。ところが、その開発用地が上聖端遺跡を横断することとなり、遺跡の破壊が余儀なくされる事態が生じた。そのため、佐久市土木課・佐久市教育委員会・佐久埋蔵文化財調査センターの三者によって、遺跡保護協議が重ねられた。その結果、昭和63年4月25日現地にて、遺跡の現状保存は困難であると判断され、発掘調査を実施し緊急に記録保存を行うことで遺跡保護に関する協議が成立した。

そこで、佐久市教育委員会が佐久市土木課より委託を受け、佐久市教育委員会からの委託を受けた佐久埋蔵文化財センターが主体となって発掘調査を実施する運びとなった。



第2図　上聖端遺跡発掘区（1：10,000　佐久都市計画道路網図による）

(2) 調査の経過

低地の調査

上聖端遺跡の発掘調査は、昭和63年5月11日から開始されたが、同日の作業はテントの設営と機材の搬入であった。5月16日から19日までの4日間は、台地上集落の調査に先立って、調査区南端の低地部（蟹沢の田切り）の調査を実施した。

この調査は、現水田面下の古代水田の確認を目的として行ったものであり、2m×2mのテストピット6箇所を調査区に均等に設けて、遺構の確認と層序の観察を実施した。結果は、近現代水田面の重なりが2・3枚確認されたが、目的の古代水田は確認できなかった。なお、近現代水田は田切り中央部から開墾を始め、徐々に周辺部に拡張され、現水田範囲に至ったことが把握された。

集落の調査

台地上の調査は、5月20日から開始し、10月10日までの期間において実施した。

表土の掘り下げは重機を使用し、その廃土置き場の関係から、調査区北半（H1号住居址からH19号住居址までの範囲）を第1調査区、調査区南半（H21号住居址からM11号溝状遺構までの範囲）を第2調査区とした。

第1調査区の調査期間は、5月20日～7月26日であり、古墳時代の遺構を主体に、竪穴住居址20軒・掘立柱建物址8棟・竪穴状遺構1基・溝状遺構7基の調査を行った。

第2調査区の調査期間は、7月27日～10月10日であり、奈良時代・平安時代の遺構を主体に、竪穴住居址27軒・掘立柱建物址13棟・竪穴状遺構1基・土坑2基・溝状遺構5基の調査を行った。また、10月3・4日の2日間は航空写真の準備のため、上聖端遺跡調査団メンバーに加えて、金井城跡調査協力者31名の協力を頂き、調査区全体の清掃を行った。そして、10月10日に航空写真撮影（中央航業社に委託）を行い、調査を終了した。

写真1　調査風景

竪穴住居址の調査方法

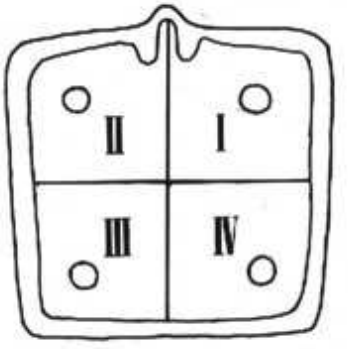
竪穴住居址の調査は、基本的に以下の方法で実施した。

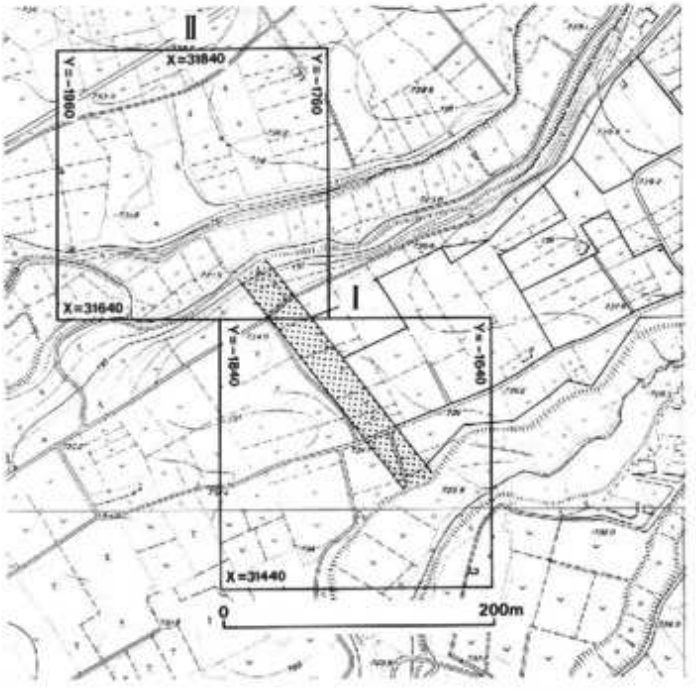
①カマドの中軸線とそれに直交する軸によって4つの調査区に区画し、それぞれの調査区を北側から反時計回りにⅠ区・Ⅱ区・Ⅲ区・Ⅳ区と呼称した（カマドが北壁にないH43・46号住居址は南北・東西軸で区画した）。②Ⅰ区・Ⅲ区において区画線にそつてL字にサブトレンチを入れ、覆土を分層する。分層した層毎にⅠ区・Ⅲ区の掘り下げを行う。その際、重要遺物は平面・垂直座標の記録を行うが、それ以外の遺物は層毎に一括して取り上げる。③Ⅰ区・Ⅲ区掘り下げ後、セクション図を作成する（南北セクションでは住居覆土とカマド覆土の関係を把握するために、カマド部分も極力セクション図に含める）。④Ⅱ区・Ⅳ区も同様に掘り下げ、遺物取り上げを行う。なお、掘り方の調査は、調査期間の制約で行えなかった。

グリッドの設定

グリッドは以下の方法で設定した。

調査を並行して行った南上下中原遺跡と上聖端遺跡の発掘区全体を網羅するように国家座標を組み、国家座標に沿って、200m×200mの大区画を2箇所（第Ⅰ区・第Ⅱ区）設ける。大区画を25区分し、40m×40mの中区画を設定し、北東隅を起点に北から南の順序でA・B・C・・Y区とする。中区画を100区分した4m×4mの小区画、すなわちグリッドを設定し、東西列を東から、あ・い・う・・こ、南北列を北から、1・2・3・・10とし、北東交点を基準に、例えば、あ1グリッドと呼称した。遺構の検出位置は、大・中・小区画の順で、例えば第Ⅰ区Aあ1グリッドと記載した。





第3図　上聖端遺跡グリッド設定図

(3) 遺跡の立地と周辺の遺跡

遺跡の立地

上聖端遺跡は、佐久市の北部、浅間山南麓の最末端部に位置し、浅間山の裾野から西南に脈状に延びた「田切り」地形の谷に挟まれた、帯状を呈する傾斜面台地上に立地する。標高は735m前後を測り、台地南側の蟹沢が流れる谷との比高差は10m程を有する。

遺跡の基盤を形成する層は、浅間火山が約1万3,600年前（C14年代）に噴出した浅間第一軽石流（P1）堆積物である。「田切り」地形とは、その軽石流堆積物が、固結凝集の不十分な火山灰砂軽石層のため、水の浸蝕には極めて弱く、繰り返された浸蝕作用の結果、深い谷が刻まれかつ両岸に切り立った急崖が形成された地形であり、当地方を特徴付ける特有の地形である。

周辺の遺跡

上聖端遺跡の立地する台地では、後述する聖原遺跡、弥生時代から平安時代の集落である下聖端遺跡等で長土呂遺跡群が形成されている。また、北方の台地には古墳時代から平安時代の集落である南上下中原遺跡等を有する芝宮遺跡群、南方の台地には奈良・平安時代の集落である曽根新城遺跡・上久保田向遺跡、古墳時代から平安時代の集落址群である栗毛坂遺跡群が展開している。以上のように、佐久市北部に広がる「田切り」地形の各台地には、古墳時代から平安時代の集落が密集しており、その中でも、中心的な位置を占めているのが上聖端・聖原遺跡である。また、本地域の奈良・平安時代の拠点集落址群である鋳師屋遺跡群は、本遺跡から1km北に位置する。

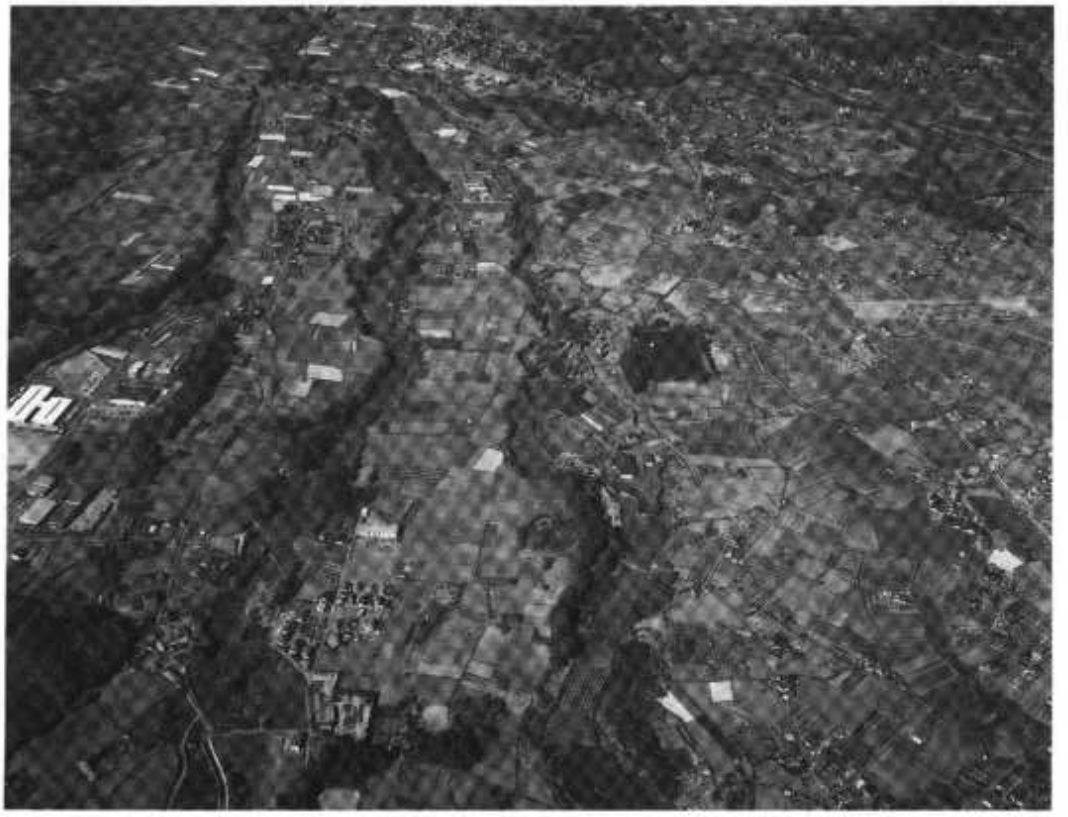
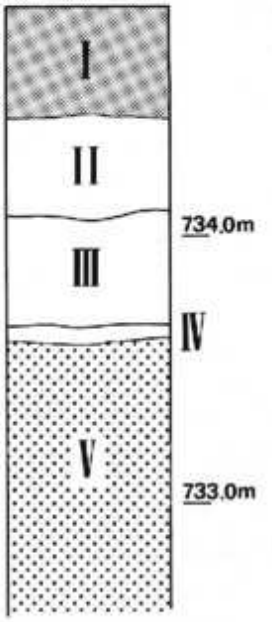


写真2　上聖端遺跡の立地

(4) 層序

上聖端遺跡の立地する台地では、台地の基盤を形成した浅間第一軽石流（Ｐ１）の厚い堆積が見られるが、その後の土層堆積は顕著ではない。と言うよりも、耕作が浅間第一軽石流まで達している場所がほとんどであるため、浅間第一軽石流堆積以降の本来の堆積土層は不明と言わざるを得ない。

しかし、発掘区北半では、耕作土（第Ⅰ層）と浅間第一軽石流の間に黒色土（第Ⅲ層）の堆積が見られる箇所があり、少なくともＨ３号住居址、Ｈ７号住居址、Ｈ25号住居址、Ｈ47号住居址は第Ⅲ層中から掘り込まれていたことが確認されている。また、Ｈ26号住居址、Ｈ47号住居址、掘立柱建物址群が存在する台地中央部では、本集落形成以前に浅い谷部が存在しており、耕作土（第Ⅰ層）と黒色土（第Ⅲ層）の間に、その浅い谷部を埋めた黒褐色土（第Ⅱ層）の堆積が存在していた。



第４図　基本層序

基本層序

（Ｈ47号住居址周辺）

第Ⅰ層　暗褐色土層（10ＹＲ3/3）
耕作土、砂質。

第Ⅱ層　黒褐色土層（10ＹＲ3/2）
パミスを含む。

第Ⅲ層　黒色土層（10ＹＲ2/1）
パミス・ローム粒子を僅かに含む。
粘質。

第Ⅳ層　褐色土層（10ＹＲ4/4）
漸移層

第Ⅴ層　明黄褐色土層（10ＹＲ7/6）
浅間第一軽石流

写真３　調査区北西隅の層序

写真４　調査区中央（Ｈ47周辺）の層序

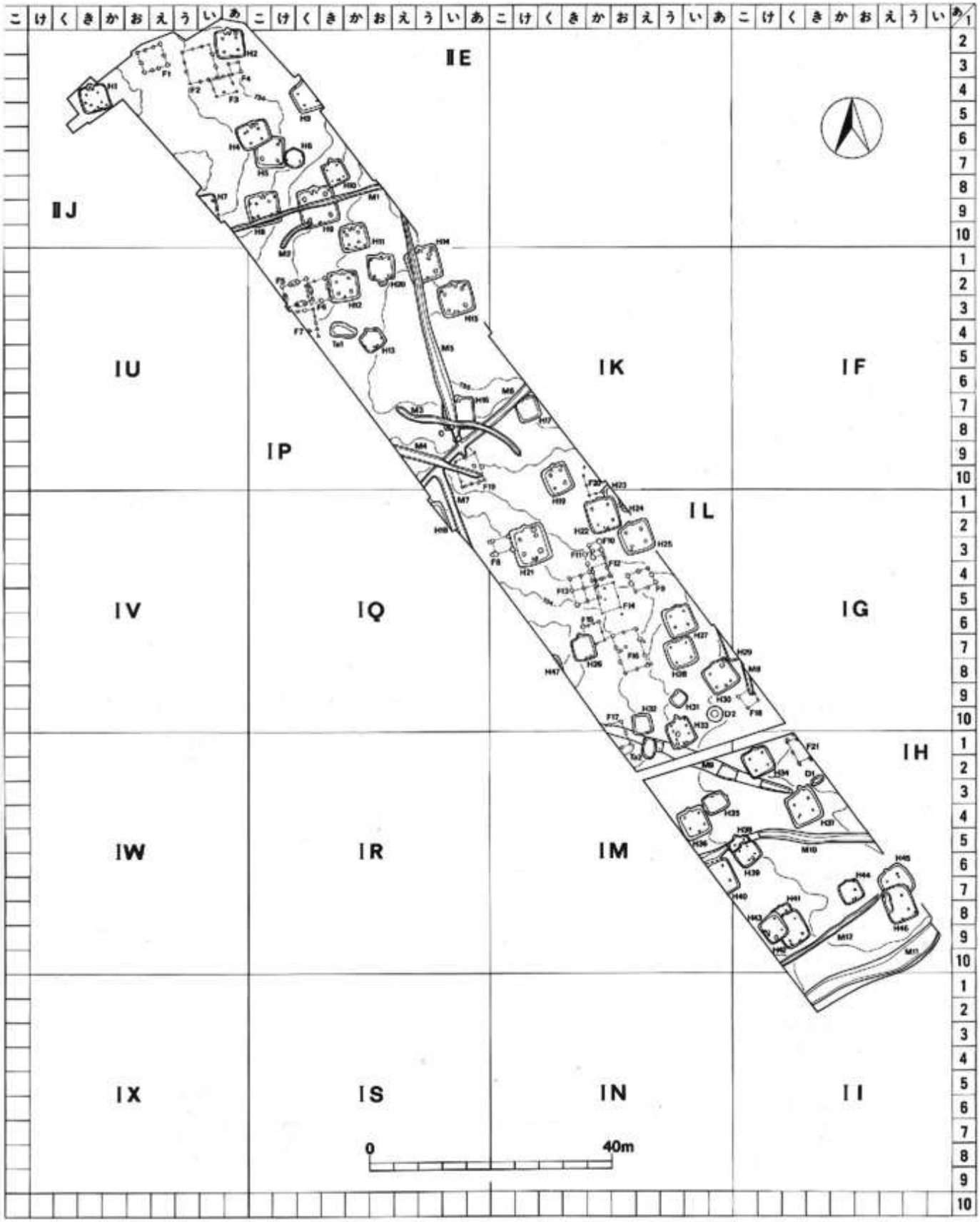
(5) 上聖端遺跡と聖原遺跡

上聖端遺跡は前述のとおり、市道1－1号線道路改良工事事業に伴い昭和63年に発掘調査された。ところが、発掘区の東側に接する約60,000㎡の広大な範囲に佐久流通事務団地造成が計画されたため、平成元年から佐久埋蔵文化財調査センター・佐久市教育委員会によって、発掘調査が開始され現在も継続中である。そして、その遺跡名は聖原遺跡とされた。また、平成元年に御代田町教育委員会、平成2年に長野県埋蔵文化財センターによっても聖原遺跡の発掘調査が実施されている。その結果、現在までに、竪穴住居址800軒以上、掘立柱建物址700棟以上が検出されており、聖原遺跡は古墳時代後期から平安時代にかけての大規模集落であることが判明した。

ところで、聖原遺跡の調査は上聖端遺跡の発掘区に接した場所から開始されたため、上聖端遺跡の調査では完掘できなかったH14号住居址、H15号住居址、H23号住居址、H24号住居址、H25号住居址、H29号住居址、H45号住居址の未調査部分が、聖原遺跡として調査されることとなった。佐久市が調査した聖原遺跡の遺構ナンバーは、上聖端遺跡からの通し番号であるため、同一遺構が異なる扱いを受けるという混乱は生じないが、逆に同一の遺構が2つの遺跡名を有することになってしまった。この問題は、開発事業を単位に遺跡名称を与えたために生じたものであり、遺跡の在り方とは無関係である。したがって、本遺跡は上聖端遺跡の名称をもって報告するが、今後は聖原遺跡として扱われることが望ましく、本報告は聖原遺跡の報告の一部と理解されたい。

以上の事情により、上聖端遺跡と聖原遺跡で重複する遺構に関しては、H14号住居址、H15号住居址、H25号住居址、H45号住居址は本報告分とし、H23号住居址、H24号住居址、H29号住居址、F20号掘立柱建物址、F21号掘立柱建物址は、聖原遺跡の報告分に譲った。

写真5　上聖端・聖原遺跡（昭和63・平成元年調査区）



第５図　上聖端遺跡遺構分布図（１：800）

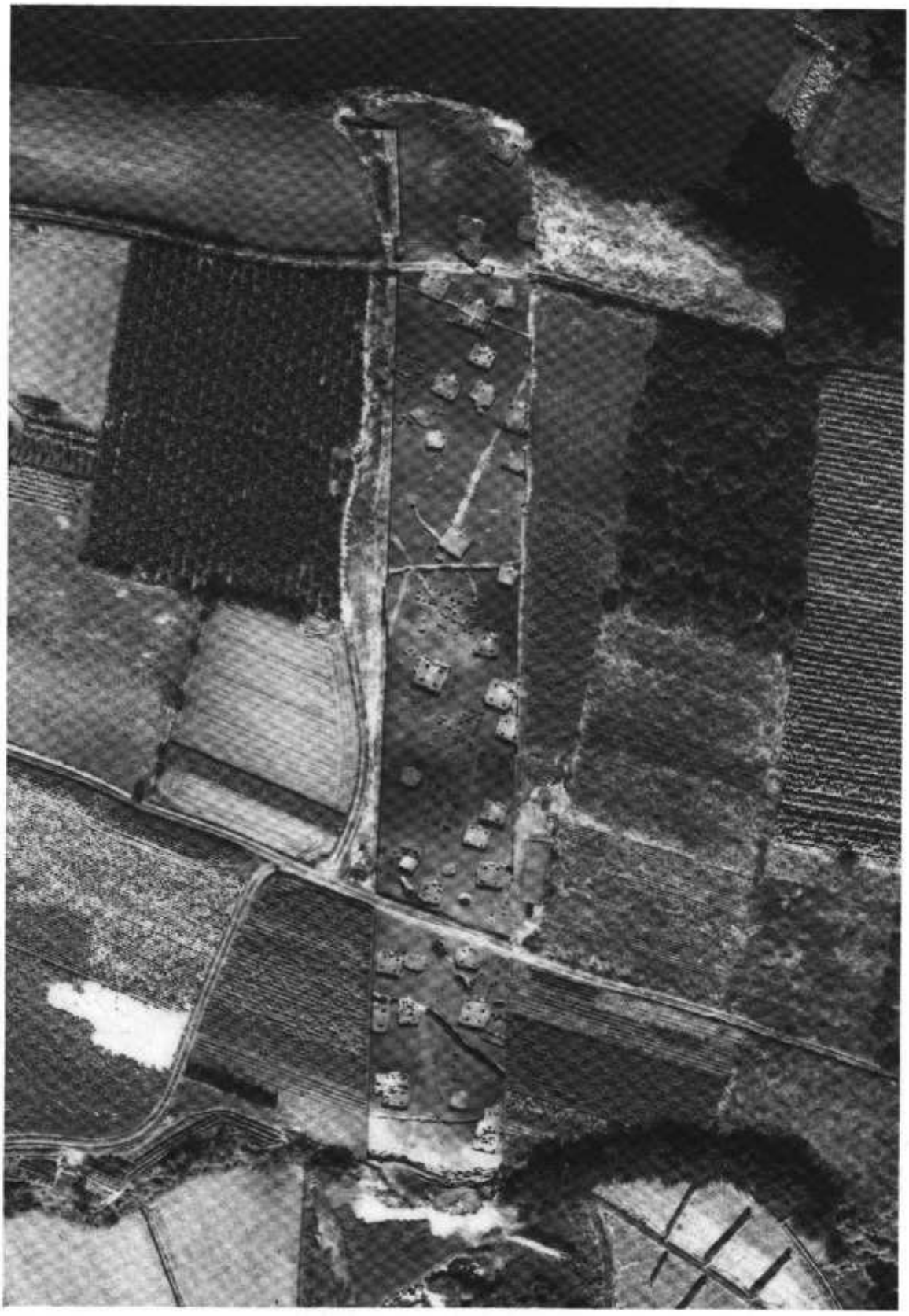
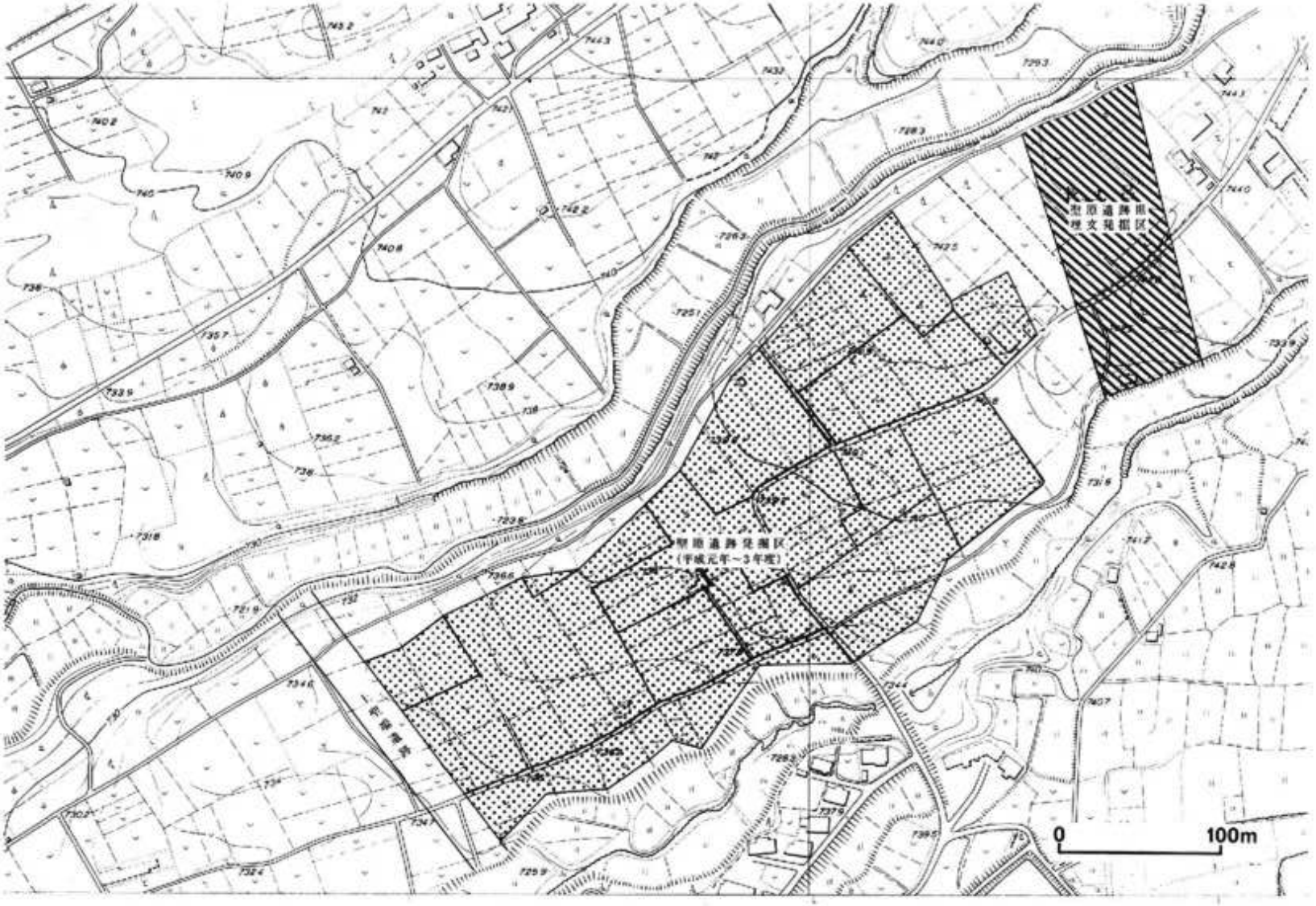
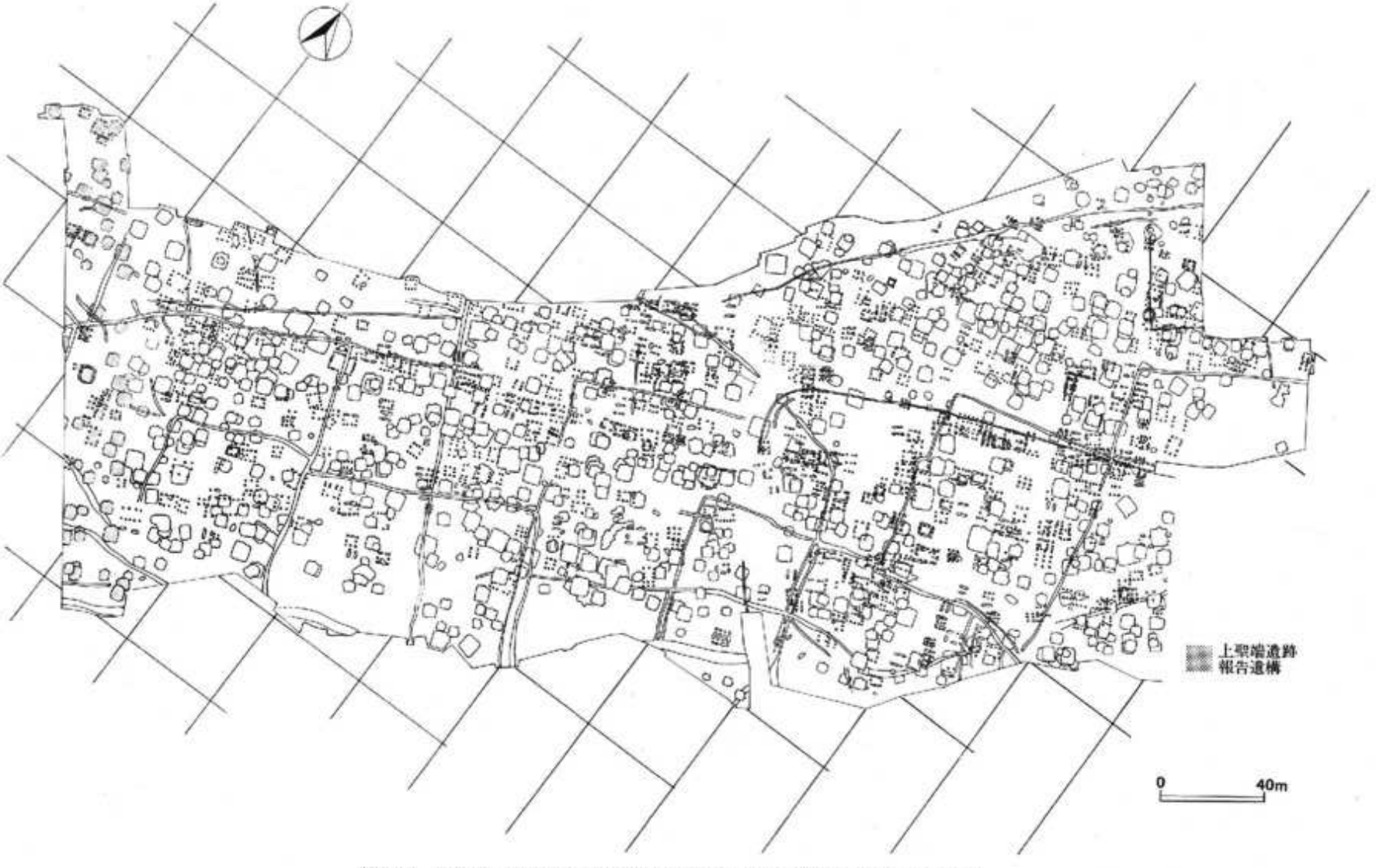


写真6　上聖端遺跡航空写真

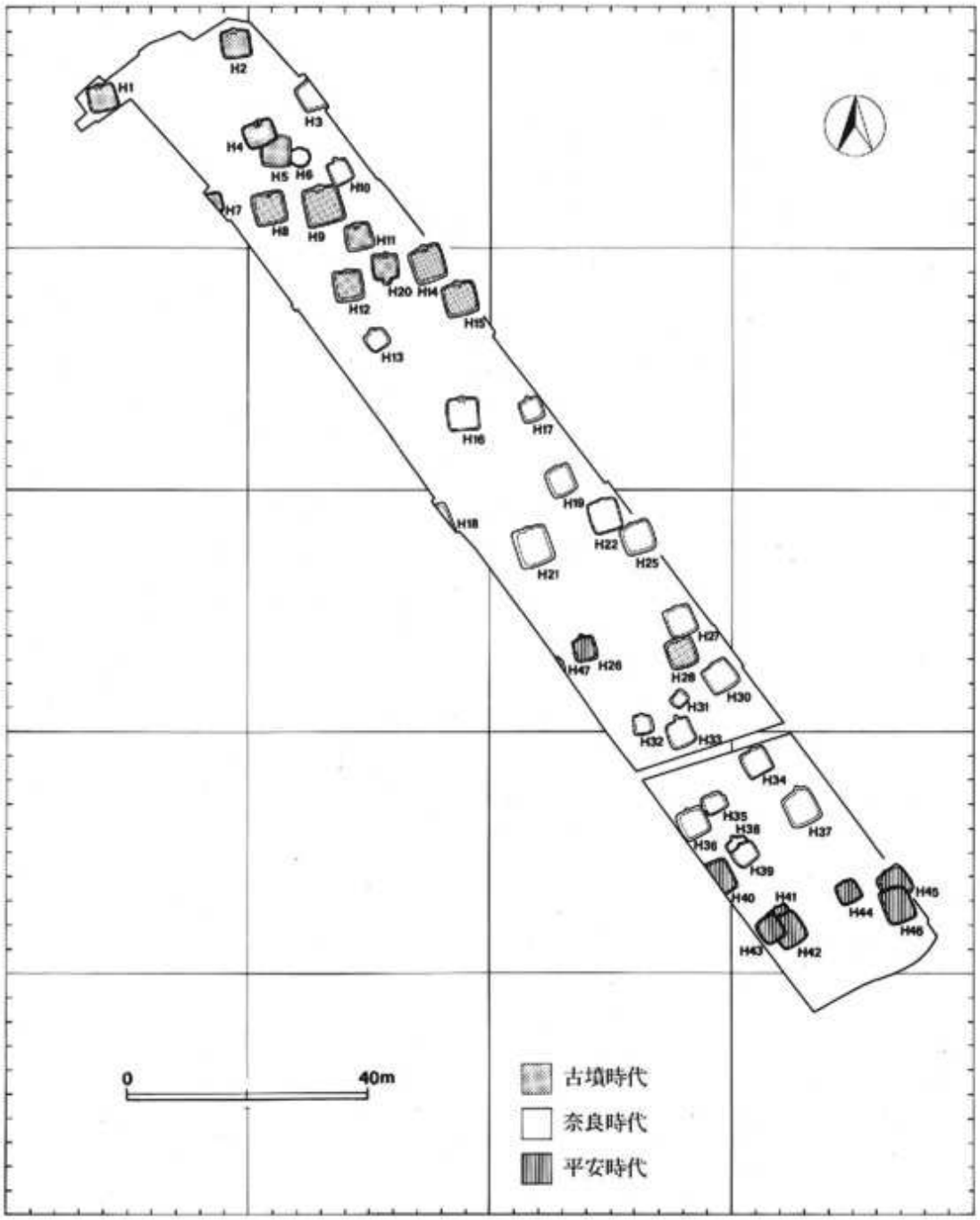


第6図　上聖端・聖原遺跡発掘区



第7図　上聖端・聖原遺跡遺構分布図（平成3年度発掘区まで・1：2000）

Ⅱ　竪穴住居址



第８図　竪穴住居址の分布

本報告書で記載する竪穴住居址の総数は44軒であり、時代別の軒数は、古墳時代の竪穴住居址14軒、奈良時代の竪穴住居址22軒、平安時代の竪穴住居址８軒である。

古墳時代の竪穴住居址

古墳時代の住居址分布は、調査区北半の範囲に13軒が集中し、調査区北半が古墳時代集落の主要領域である。また、聖原遺跡調査範囲でも連続した集落の様相が確認されている。なお、同一範囲にあるＴａ１号竪穴状遺構も同時期のものである。調査区南半では２軒（H28号と今回未報告のH29号）とＴａ２号竪穴状遺構が分布する。

時期的には、後期後半・七世紀代の住居址が主体であると考えられ、Ｈ４号住居址のみが七世紀末～八世紀初頭に位置するものと思われる。ただし、段階設定は、聖原遺跡の全容が分析された後に新たに検討したい。

住居形態は、床面積20㎡前後の隅丸方形が主体である。それ以外ではＨ９号住居址（床面積33.7㎡の大形住居）とH16号住居址が方形を呈し、Ｈ４号住居址が長方形状の隅丸方形を呈していた。また、本地域に特徴的な張り出しピット部を有する住居址は、H20号住居址のみであった。柱穴は、確認されなかったH16号住居址以外では４本の規則的配置である。また、９軒の住居址で一般に出入口部施設とされる南壁中央部の小ピットが検出されている。なお、貯蔵穴以外のピットを各コーナーに有する住居址も多い。周溝は10軒で確認されている。カマドの構築位置は北壁中央部で、構築方法は、袖部分の地山を削り残して、その先端部に袖石を埋設し、両袖石の上に天井石を高架させ焚口部を形成し、粘土で覆い固めたもの（形態Ａ）である。利用石材は安山岩等であり、軽石はほとんど用いられていない。また、Ｈ４号住居址では、地山の削り残しはみられず、粘土主体の構築方法（形態Ｂ）に変化していた。

奈良時代の竪穴住居址

奈良時代の竪穴住居址は、調査区全域に分布していたが、18軒が集中する調査区中央部に集落の主要領域が形成されていた。また、この範囲にはＤ２号土坑と掘立柱建物址群も存在し、集落様相の一端が示されていた。

時期的には、八世紀代の各時期のものが確認された。主体は12軒の住居址が検出された前半期であり、八世紀第Ⅰ四半期８軒、第Ⅱ四半期４軒である。後半期には10軒の住居址があり、第Ⅲ四半期６軒、第Ⅳ四半期から九世紀初頭４軒である（以上の時期決定は、堤隆1987「佐久地方における奈良時代を中心とした土器様相」『長野県考古学会誌』55.56を基準とした）。ただし、段階設定は、聖原遺跡の集落の全容が分析された後に新たに検討したい。

住居形態は、隅丸方形が主体である。それ以外ではH10号住居址が方形を呈していた。規模は、H21号住居址が31.3㎡の大形住居址で、他は10軒が15～25㎡前後、３軒が11～13㎡前後、５軒が４～10㎡前後であった。柱穴は４本配置が14軒、２本配置が３軒、検出されなかったのが２軒である。また、出入口部施設とされるピットが８軒で検出されている。周溝が確認された住居址は９軒である。カマド構築位置は北壁であり、構築方法には以下の形態的多様性が確認された。

形態Ｃ：方形の燃焼部が壁外に構築されたカマド。煙道部の在り方に、燃焼部と段差をもって半円形に掘り込まれたもの（Ｃ１）と角柱状に掘り込まれたもの（Ｃ２）がある。形態Ｄ：石組の後に粘土で覆い固められたカマド。煙道部の在り方に、角柱状に掘り込まれたもの（Ｄ１）、燃焼部と段差をもって半円形に掘り込まれたもの（Ｄ２）、舟先状に緩傾斜で掘り込まれたもの（Ｄ３）がある。形態Ｅ：石組主体のカマド。なお、石組に利用された石材は軽石である。以上の形態にある程度の変遷過程を示す。形態Ｃは前半期の特徴で、H10号を典型とするＣ１は後半期にはない。また、H37号を典型とするＣ２は、後半期のH13号にもあるが、角柱状の掘り込みが弱まっている。形態Ｄ１は、全期間に存在し奈良時代のカマドを特徴付ける。角柱状の掘り込みの傾斜が緩やかになる変遷を示し、形態Ｃ２の変遷と相関する。形態Ｄ２は後半期から平安時代前半期のカマドにある。形態Ｄ３は、後半期から平安時代前半期に特徴的に存在する。形態Ｅは、後半期後半のＨ６号住居址にみられたものである。

平安時代の竪穴住居址

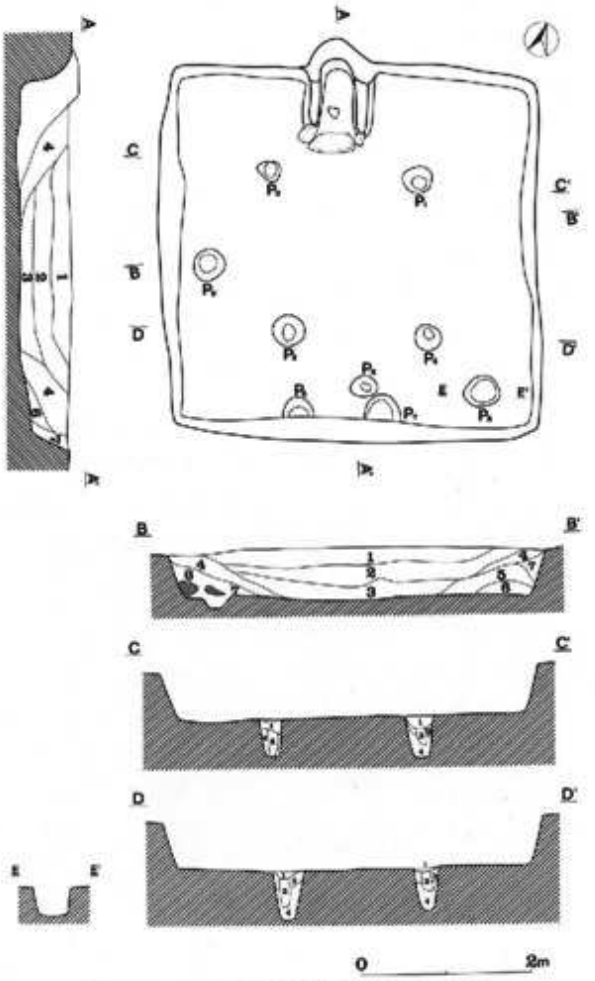
平安時代の竪穴住居址分布は、調査区中央部に１軒、調査区南端に切り合う７軒の集中分布がみられた。時期的には、九世紀前半（６軒）と十世紀以降（２軒）である。住居形態は隅丸方形である。規模は、20㎡強が４軒、11㎡程度が３軒であった。柱穴は４本配置が４軒、検討を要する住居址が４軒である。出入口部施設とされるピットが３軒で、周溝は３軒で確認された。カマドは北壁中央が６軒、南壁東隅が１軒、南壁西隅が１軒である。なお、H42号住居址のカマドは、極めて強固な石組と３個以上の土師器甕を連結した煙管を有する特徴的な構造をなしていた。

(1) H１号住居址　　古墳時代

H１号住居址の検出位置は、第Ⅱ区Jか・き4・5グリッドである。平面形態は隅丸方形を呈し、南北4.4m、東西4.4m、床面積15.6㎡の規模を有する。主軸方向はN－21°－Wを示す。確認面からの壁高は60cm前後で、壁は110度前後で立ち上がる。周溝は存在しない。

主柱穴は４個（Ｐ１～Ｐ４）で構成され、配置はやや不規則である。Ｐ１は32×35cm、深さ50cm、Ｐ２は25×27cm、深さ47cm、Ｐ３は38×38cm、深さ57cm、Ｐ４は31×30cm、深さ52cmを有する。また、各柱穴で径10cm大の柱痕が認められた。南壁中央際では、出入口部施設に付随するピットと思われるＰ５～Ｐ７が確認された。Ｐ６は26×32cm、深さ８cm、壁に接するＰ５は22×36cm、深さ６cm、Ｐ７は30×42cm、深さ８cmである。また、南東隅に位置するＰ８は37×44cm、深さ34cmを測り、西壁中央にあるＰ９は38×36cm、深さ８cmの浅いピットである。

覆土は、暗褐色土（１層）・黒褐色土（２層）・黒色土（３層）が住居中央を埋め、パミス・ローム粒子を多く含む褐色土（４～６層）と黒色土（７層）で、壁際が埋められている。なお、６層には大形のロームブロックが含まれていた。



第９図　H１号住居址実測図（１：80）

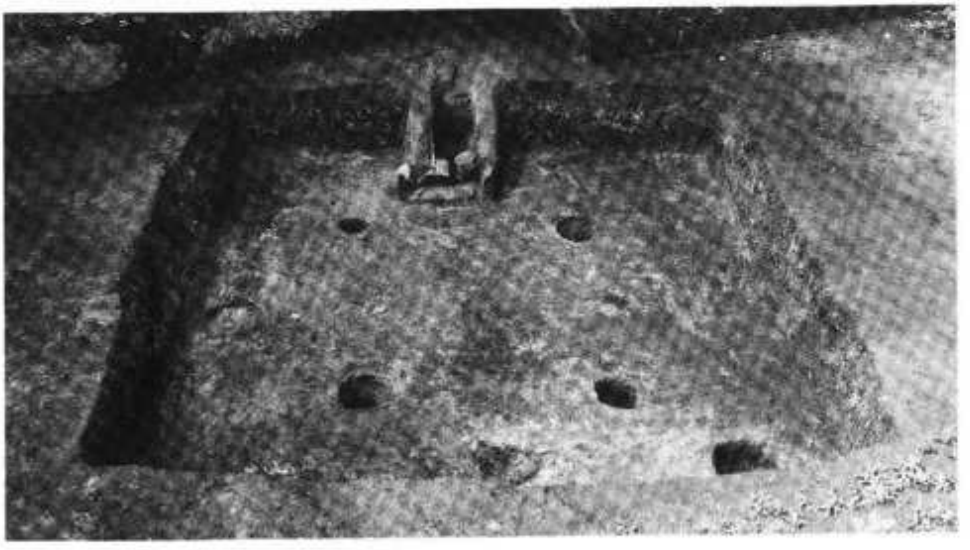
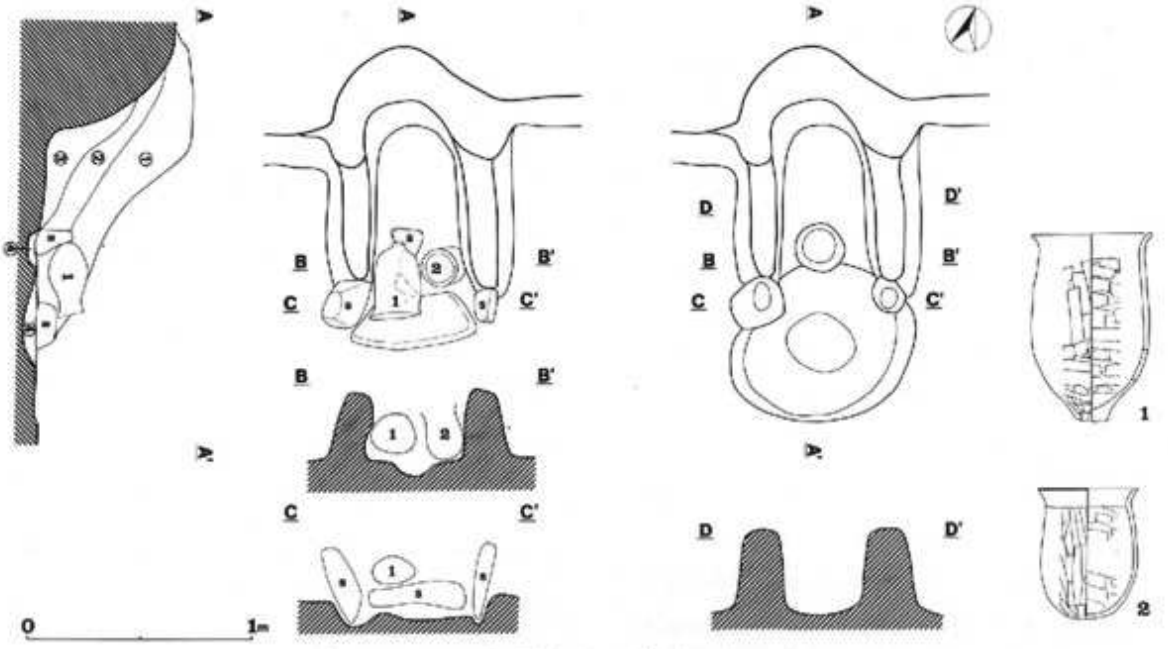


写真７
H１号住居址



第10図　H１号住居址カマド実測図（１：30）

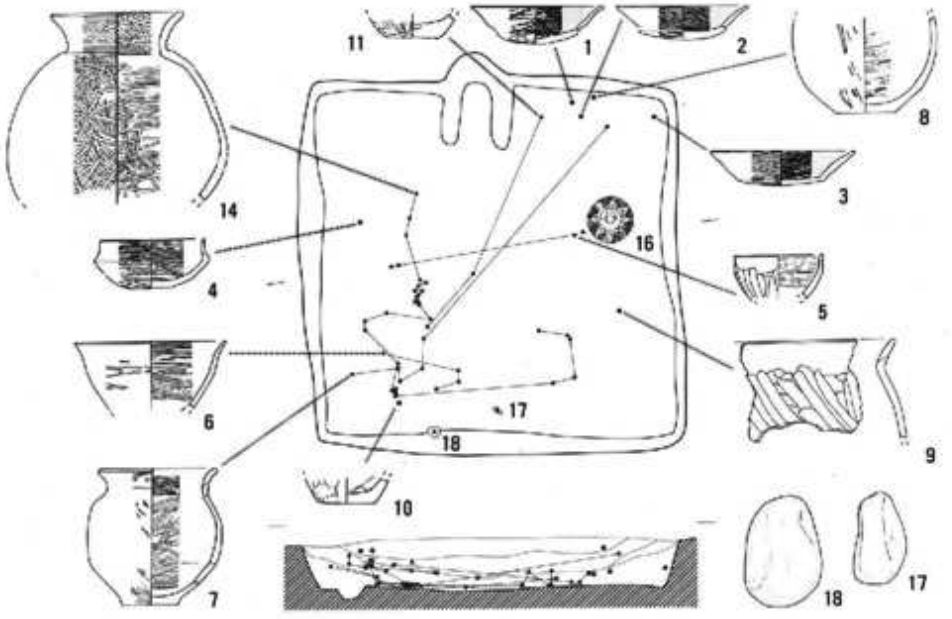
写真８　H１号住居址カマド

カマド

構築位置は北壁中央である。煙道部は半円状の緩い傾斜をなす掘り込みである。袖部は地山を削り残して造り出され、橙色粘土の付着が僅かにみられた。両袖先端には袖石が埋め込まれた状態で残されていた。また、両袖石間の火床面には大形板状礫が横たわった状態で存在していた。この礫は本来両袖石に高架された天井石と思われる。火床面は壁と同一面まで掘り込まれ、中央部に支脚石が埋め込まれていた。掘り方は焚口部を中心とした皿状の窪みと袖石・支脚石設置用のピットが確認され、黒色土（④層）が充塡されていた。

長胴甕（１）が横倒しの状態で検出され、その出土状態は、底部が支脚石に、口縁部が降下した天井石の上に乗っていた。また、長胴甕（２）が右袖に接し正上位で残されていた。この出土状態はカマドでの甕使用状態を示唆しようか。なお、袖石・天井石の石材は石英安山岩であり、支脚石は板状安山岩の側縁を割り長台形状に整形したものである。

覆土は灰褐色土（①層）、橙色粘土ブロックを多量に含む黒褐色土（②層）、炭化物・灰・橙色粘土ブロックを多量に含む暗褐色土（③層）である。以上のように本カマドは破壊された状態にあるが、構築材に粘土が用いられていたことが覆土や袖に残る粘土から伺える。



第11図　Ｈ１号住居址遺物分布図

遺物

出土した主要遺物は、土師器坏・鉢・甑・甕、紡錘車、敲石、編物石、臼玉である。

土師器坏には、１～３の稜を底部付近に有する内面黒色処理の坏と、４の須恵器模倣坏がある。６の土師器甑は、逆「八」の字状の形態で、ヘラミガキが施されている。甕には、12・13のヘラケズリが施された長胴甕と、ヘラミガキが施された７・８の小形球胴甕・14の大形球胴甕がある。これらは、古墳時代後期の土器様相と捉えられよう。

出土状態は、16の滑石製の紡錘車と18の両端に敲打痕が顕著な敲石が床面から出土している。カマド東側・６層では１～３の土師器坏と８の球胴甕の集中分布がみられた。また、７の球胴甕は破片がⅢ区４・６層からⅠ区４層に分布し、14の球胴甕はⅢ区４層を中心にⅡ・Ⅳ区３層に分布していた。４の坏はⅡ区４層から出土したものである。これらの出土状態は４・６層堆積時に西側から投げ込まれた状況を示唆している。12・13の長胴甕は前述したとおりカマド内の出土である。なお、15の滑石製の臼玉は、12の甕内から検出されたものである。17は編物石と考えられⅢ区６層から出土している。

写真９　西南隅の遺物出土状態

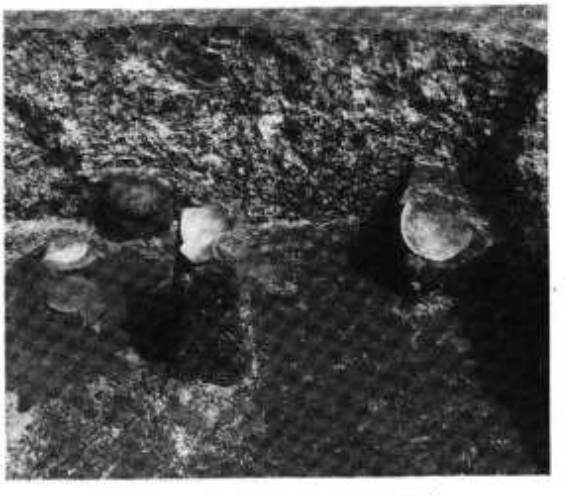
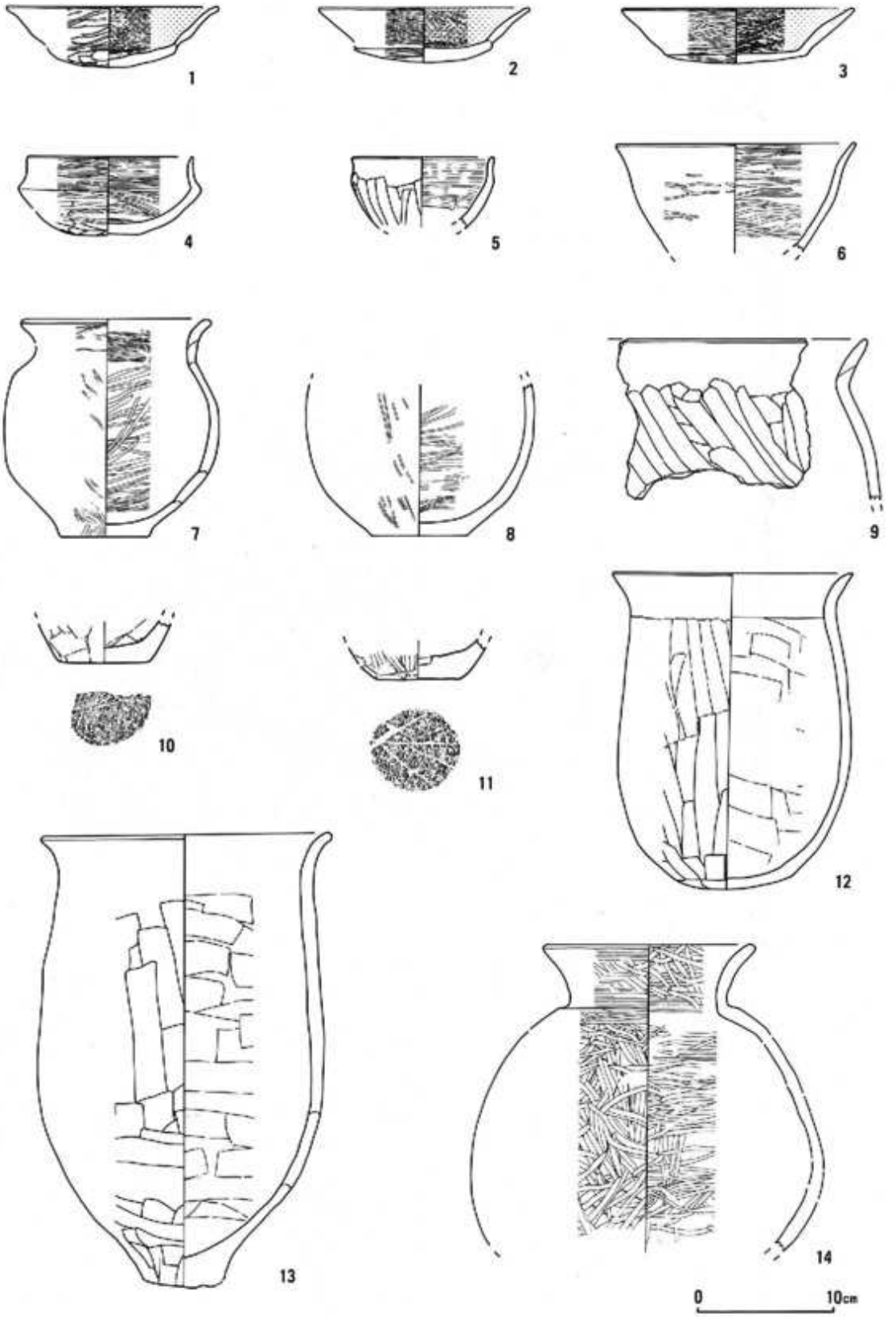


写真10　北東隅の遺物出土状態



第12図　H１号住居址出土土器（１：４）

表1　H1号住居址出土土器観察表

挿図番号	種別	器形	法量	残存	成形	調整	色調	出土位置	備考
1	土師器	坏	(15.6) 9.3 4.5	口縁1/3 底部完形	非ロクロ	内面：ヘラミガキ→黒色処理 外面：口縁ヨコナデ・底部ヘラケズリ→口縁ヘラミガキ	外面:2.5YR5/8 断面: 10YR8/4	Ⅰ区6層	
2	土師器	坏	(15.4) 10.0 4.0	口縁1/2 底部完形	非ロクロ	内面：ヘラミガキ→黒色処理 外面：ヘラミガキ	外面:7.5YR6/3 断面:7.5YR7/4	Ⅰ区6層	
3	土師器	坏	(17.0) (10.3) 4.1	口縁1/2 底部1/3	非ロクロ	内面：ヘラミガキ→黒色処理 外面：ヘラミガキ	外面: 5YR5/6 断面:7.5YR7/4	Ⅰ区6層	
4	土師器	坏	(12.2) — 5.8	口縁1/2 底部完形	非ロクロ	内面：口縁横毛目・みこみ部ナデ→ヘラミキガキ 外面：口縁横毛目・体部～底部ヘラケズリ→ヘラミガキ	内面:7.5YR6/4 外面: 5YR5/6 断面:7.5YR6/4	Ⅱ区4層	
5	土師器	鉢	(10.4) — 〈5.2〉	口縁1/2	非ロクロ	内面：ヘラナデ→ナデ（底毛状工具） 外面：口縁ヨコナデ・体部ヘラケズリ	内面: 5YR5/4 外面: 5YR5/4 断面:7.5YR5/4	Ⅰ区3層 Ⅱ区3層	
6	土師器	甕	(17.6) — 〈8.0〉	口縁1/2	非ロクロ	内面：ヘラミガキ 外面：口縁ヨコナデ・胴部ナデ→ヘラミガキ	内面: 5YR6/6 外面:7.5YR6/6 断面:7.5YR6/6	Ⅱ区3層	
7	土師器	甕	(13.9) 6.4 16.2	口縁1/3 底部完形	非ロクロ	内面：ヘラミガキ 外面：ヘラミガキ	内面: 10YR7/4 外面: 10YR7/4 断面: 10YR7/4	Ⅱ区6層 Ⅱ区4層 Ⅰ区4層	
8	土師器	甕	— 〈6.8〉 〈11.2〉	底部1/3	非ロクロ	内面：ヘラミガキ 外面：ヘラミガキ	内面:7.5YR6/4 外面:7.5YR6/4 断面:7.5YR6/4	Ⅰ区6層	
9	土師器	甕	— — —	破片	非ロクロ	内面：胴部ナデ（胴毛状工具）→口縁ヨコナデ 外面：口縁ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	内面:7.5YR6/4 外面: 10YR6/4 断面:7.5YR6/4	Ⅳ区1層	
10	土師器	甕	— 〈6.6〉 〈3.1〉	底部2/5	非ロクロ	内面：ヘラナデ 外面：ヘラナデ	内面:7.5YR4/4 外面:7.5YR5/4 断面:7.5YR7/4	Ⅱ区1層	木葉痕あり
11	土師器	甕	〈6.3〉 〈3.0〉	底部完形	非ロクロ	内面：ヘラナデ 外面：ナデ後部分的にヘラミガキ	内面: 5YR5/6 外面: 10YR6/2 断面: 5YR5/4	Ⅰ区6層 Ⅱ区3層	木葉痕あり
12	土師器	甕	17.5 8.5 23.4	完形	非ロクロ	内面：胴部～底部ヘラナデ→口縁ヨコナデ 外面：口縁ヨコナデ→胴部・底部ヘラケズリ→胴上半ヘラナデ	内面: 5YR5/4 外面: 5YR5/4	カマド	
13	土師器	甕	21.3 5.9 33.4	完形	非ロクロ	内面：口縁ヨコナデ→胴部～底部ヘラナデ 外面：口縁ヨコナデ→胴部・底部ヘラケズリ	内面:7.5YR6/4 外面: 5YR5/6 断面: 5YR6/8	カマド	
14	土師器	甕	(15.5) — 〈22.7〉	口縁1/3	非ロクロ	内面：口縁ヨコナデ・胴部ヘラナデ→ヘラミガキ 外面：口縁ヨコナデ・胴部ヘラケズリ→ヘラミガキ	内面: 10YR7/3 外面: 10YR6/3 断面: 10YR7/3	Ⅱ区3層 Ⅱ区4層 Ⅳ区3層	

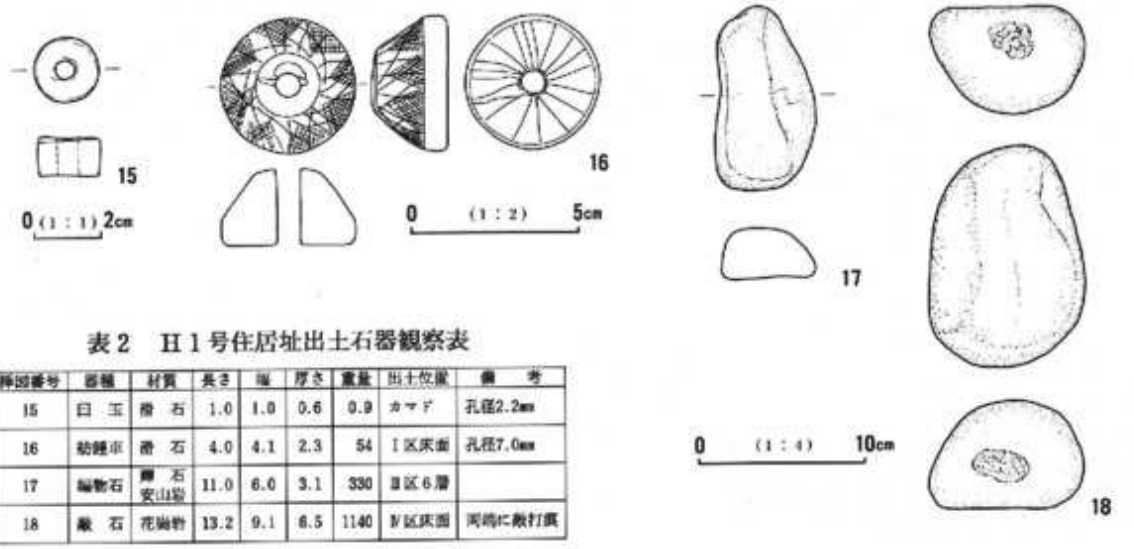


表2　H1号住居址出土石器観察表

挿図番号	器種	材質	長さ	幅	厚さ	重量	出土位置	備考
15	臼玉	滑石	1.0	1.0	0.6	0.9	カマド	孔径2.2mm
16	紡錘車	滑石	4.0	4.1	2.3	54	Ⅰ区床面	孔径7.0mm
17	編物石	輝石安山岩	11.0	6.0	3.1	330	Ⅱ区6層	
18	敲石	花崗岩	13.2	9.1	6.5	1140	Ⅳ区床面	両端に敲打痕

第13図　H1号住居址出土石器

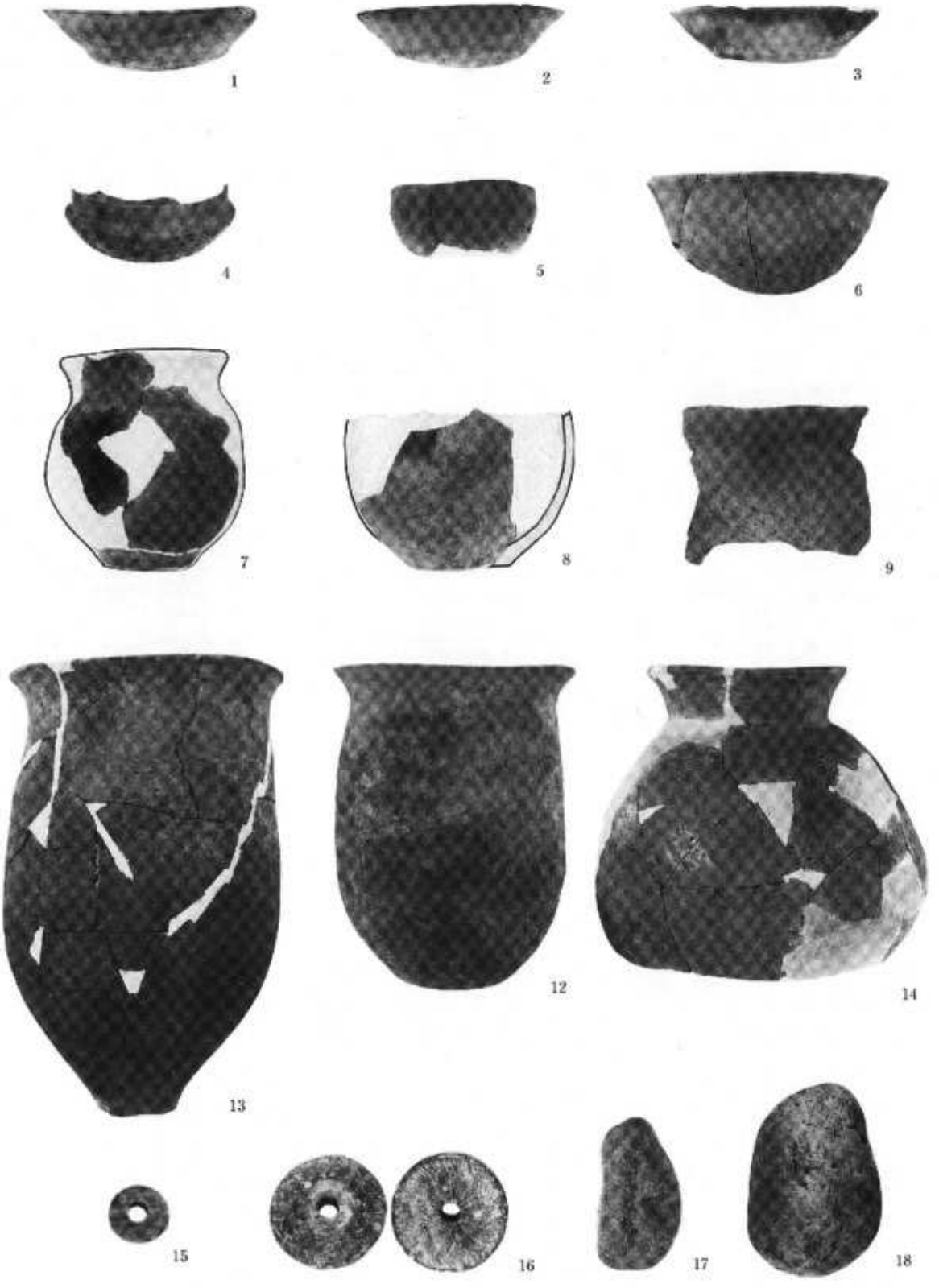
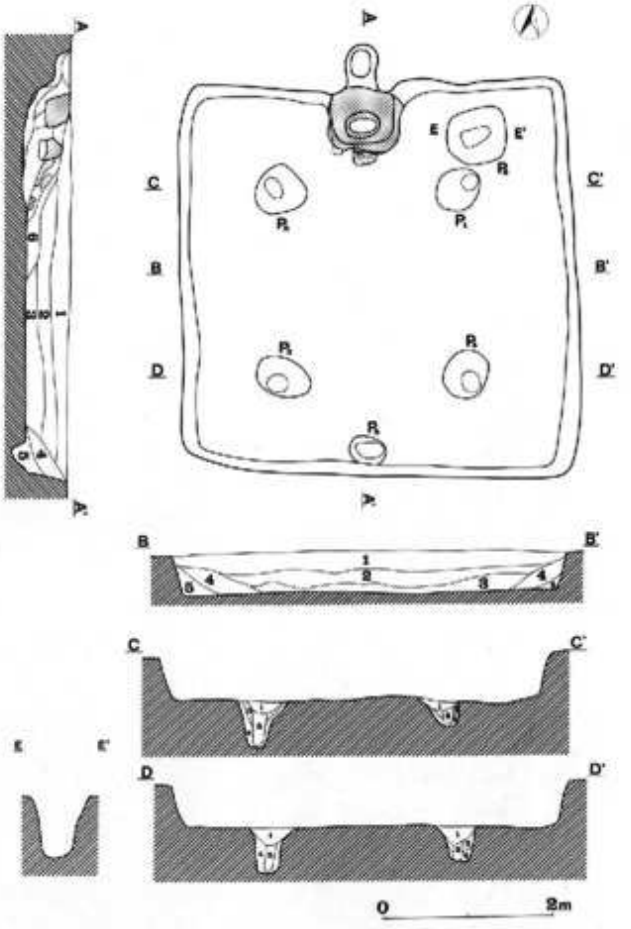


写真11　H１号住居址出土遺物

(2) Ｈ２号住居址　　古墳時代

Ｈ２号住居址の検出位置は、第Ⅱ区Ｊあ２グリッドである。平面形態は、南北4.6m、東西4.7mの整った隅丸方形を呈する。床面積は17.7㎡を測る。主軸方向はＮ－８°－Ｗを指す。確認面からの壁高は50cm程度で、壁は105度程度の傾斜で立ち上がる。周溝は認められない。主柱穴は４個からなり規則的に配置されている。Ｐ１：50×51cm、深さ33cm、Ｐ２：58×62cm、深さ57cm、Ｐ３：45×66cm、深さ54cm、Ｐ４：58×52cm、深さ43cmと掘り方は大形であるが、確認された柱痕は径５～８cm程である。また、南壁中央に接して出入口部関連のＰ５（33×44cm、深さ15cm）、カマド右脇に貯蔵穴と考えられるＰ６（66×69cm、深さ70cm）が確認されている。

覆土は、１～３層が住居中央を埋めた覆土で、１層が暗褐色土、２層が褐色土、３層が黒褐色土である。４・５層は壁際を埋める覆土で、パミス、ローム粒子を多く含む黒褐色土（４層）と黒色土（５層）である。また白色粘土粒子を多量に含む黒褐色土（６層）がカマド前面から住居中央の床面を埋めていた。



第14図　Ｈ２号住居址実測図（１：80）

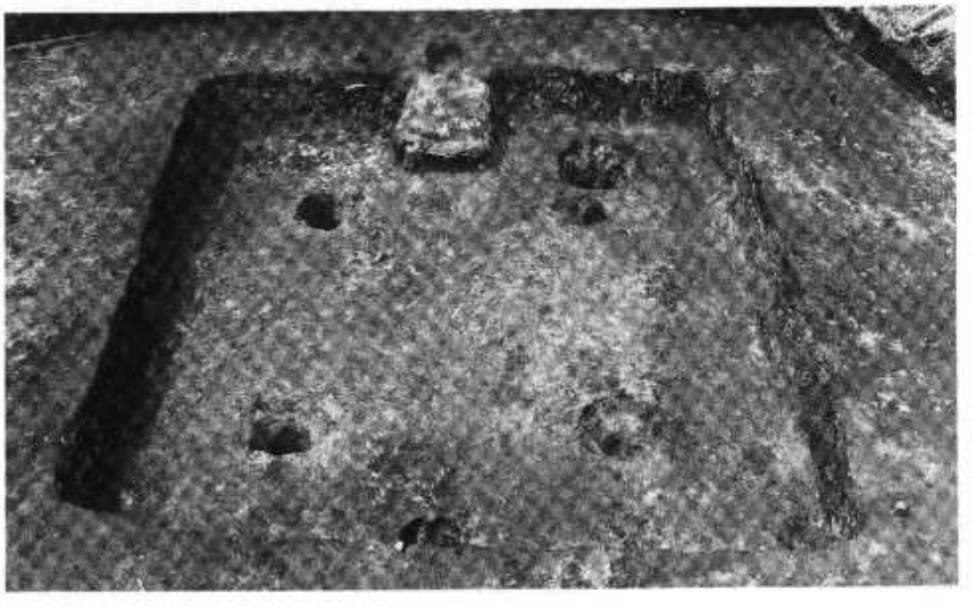
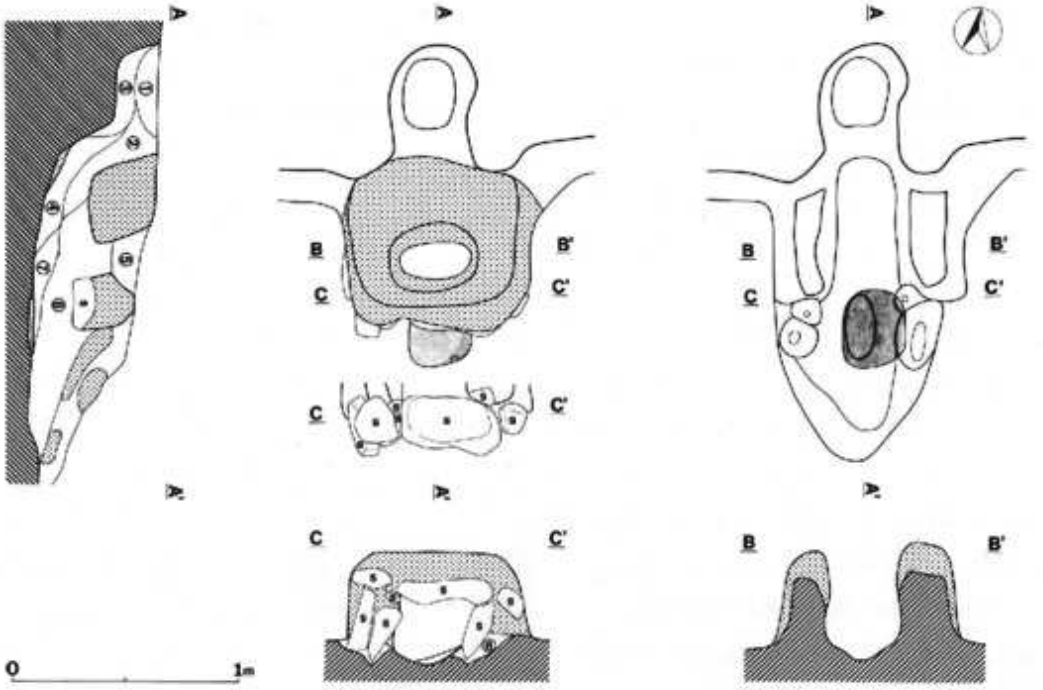


写真12
Ｈ２号住居址



第15図　H 2 号住居址カマド実測図（1：30）

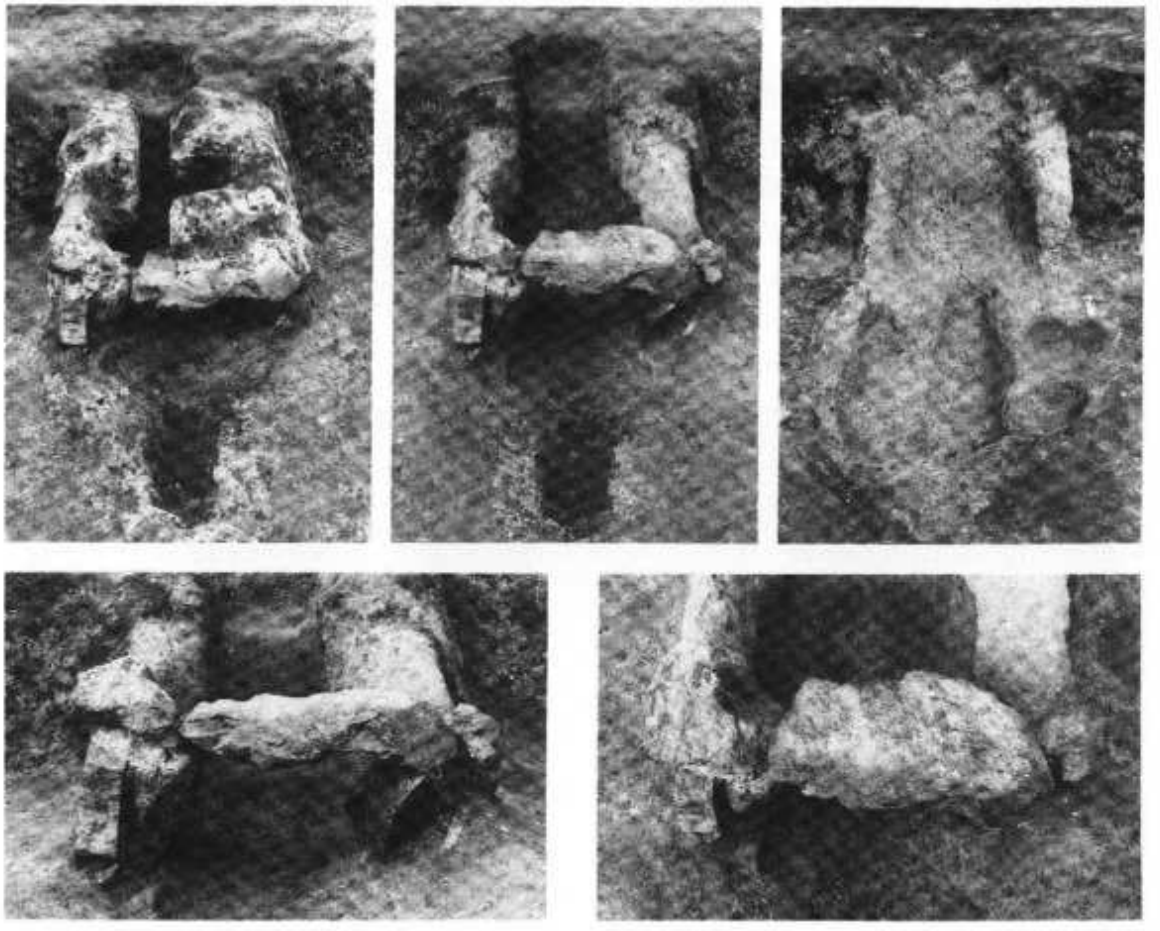


写真13　H 2 号住居址カマド

カマド

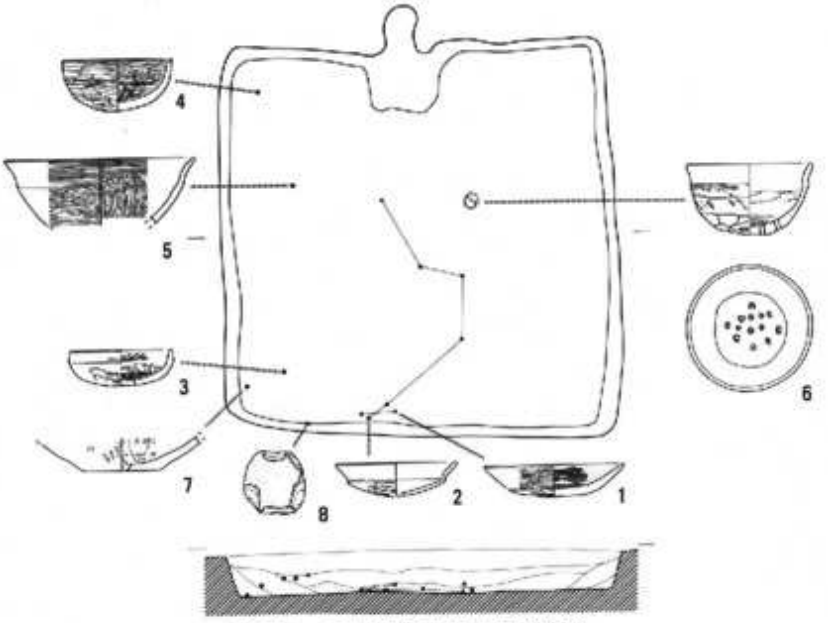
構築位置は北壁中央である。比較的良好に原形が保たれていた。

煙道部は燃焼部との境に段を設けて、50×30cm程度の半楕円形状の掘り込みが、壁外に設けられていた。

袖部は地山を馬蹄形に計画的に掘り残して造り出されたものである。両袖部先端には浅いピットが掘られ、左袖先端には花崗岩・安山岩の板状礫2個が、右袖先端には石英安山岩の板状礫1個が袖石として埋め込まれ、さらに、左袖石上に安山岩の角礫・小礫を、右袖石上に溶岩の角礫、安山岩の小礫を乗せ、最後に両袖石間に角閃石安山岩の大形板状礫を高架させ、焚口部の鳥居状の骨組みが構築される。そして、砂を混入した白色粘土で覆い固めて天井部が構築されていた。なお、30×40cm程の楕円形のかけ口が確認された。

火床面は壁と同一面まで掘り込まれ、床面と焚口部の境には段差が設けられていた。また焚口部を中心に長楕円形の掘り方がみられた。なお支脚石は存在していなかった。

覆土は、①層の褐色土、②層の黒褐色土、③層の黄褐色土が煙道部を埋め、白色粘土粒子・ローム粒子を多量に含む⑤層の暗褐色土がカマド上面を、白色粘土粒子・ローム粒子を含む⑥層の暗褐色土、ローム粒子を含む④層の褐色土、白色粘土



第16図　H２号住居址遺物分布図

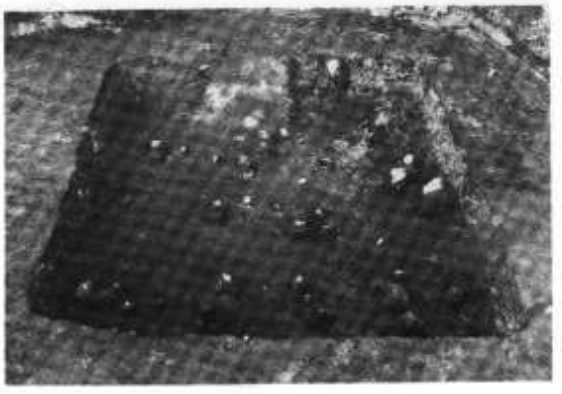
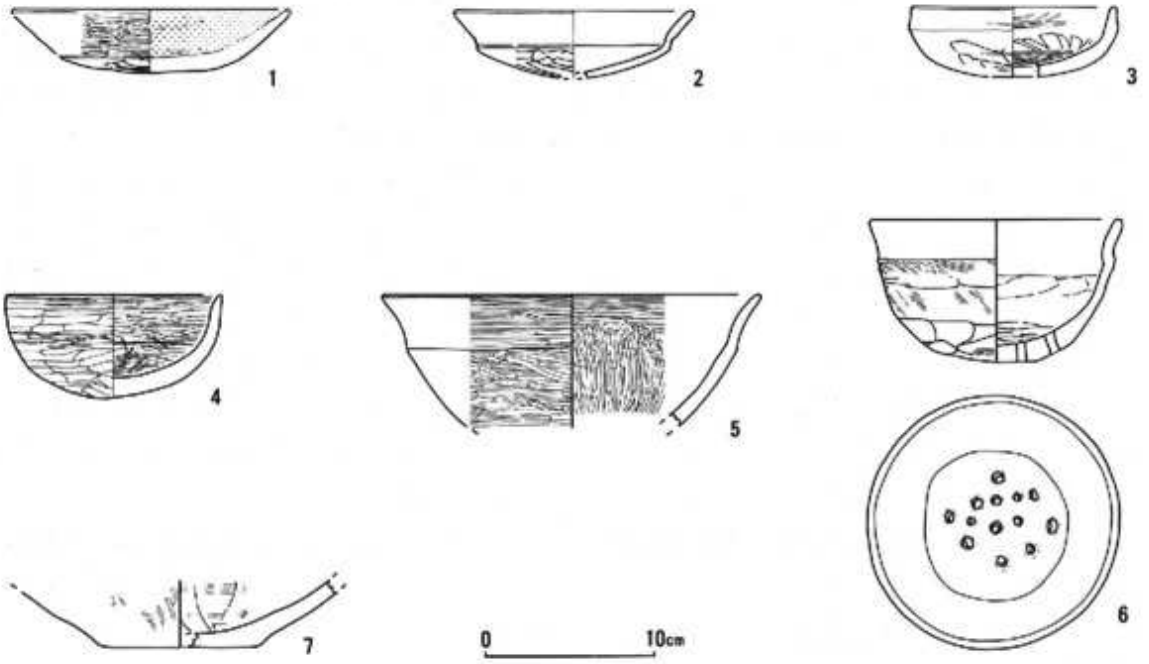


写真14　H２号住居址遺物出土状態

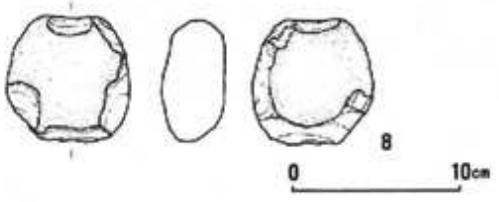
写真15　土器６出土状態



第17図　Ｈ２号住居址出土土器（１：４）

表３　Ｈ２号住居址出土土器観察表

掲図番号	種別	器形	法量	残存	成形	調整	色調	出土位置	備考
1	土師器	坏	(16.5) 10.6 3.8	底部完形	非ロクロ	内面：ヘラミガキ→黒色処理 外面：口縁ヨコナデ・底部ヘラケズリ→ヘラミガキ	外面：５ＹＲ5/4 断面：５ＹＲ5/4	Ⅲ区床面	
2	土師器	坏	(14.2) — 4.0	口縁完形	非ロクロ	内面：みこみ部ナデ→口縁ヨコナデ 外面：口縁ヨコナデ→底部ヘラケズリ	内面:7.5ＹＲ7/4 外面:7.5ＹＲ7/4 断面:7.5ＹＲ7/4	Ⅱ～Ⅳ区床面	
3	土師器	坏	(12.1) — 4.1	口縁1/4	非ロクロ	内面：口縁ヨコナデ・みこみ部ナデ→ヘラミガキ 外面：口縁ヨコナデ・底部ヘラケズリ→ヘラミガキ	内面：10ＹＲ6/4 外面：10ＹＲ6/4 断面：10ＹＲ6/4	Ⅲ区４層	
4	土師器	坏	12.8 — 6.1	完形	非ロクロ	内面：ヘラケズリ→ヘラミガキ→黒色顔料を塗布 外面：ヘラケズリ→ヘラミガキ→黒色顔料を塗布	生地：５ＹＲ7/6	Ⅱ区４層	
5	土師器	甕	(22.3) — 〈7.8〉	口縁1/4	非ロクロ	内面：口縁ヨコナデ・胴部ナデ→ヘラミガキ 外面：口縁ヨコナデ・胴部ヘラケズリ→ヘラミガキ	内面:7.5ＹＲ7/4 外面:7.5ＹＲ7/4 断面:7.5ＹＲ7/4	Ⅱ区２層	
6	土師器	甕	14.8 — 8.4	完形	非ロクロ	内面：胴部ヘラナデ後ナデ→口縁ヨコナデ 外面：口縁ヨコナデ・胴部ヘラケズリ→刷毛目ないしヘラナデ	内面:7.5ＹＲ5/4 外面:7.5ＹＲ5/4 断面:7.5ＹＲ5/4	Ⅰ区３層	
7	土師器	甕	— 〈9.6〉 〈4.0〉	底部1/4	非ロクロ	内面：刷毛目→ヘラナデ 外面：ヘラミガキ	内面：５ＹＲ6/4 外面：５ＹＲ5/4	Ⅲ区床面	



第18図　Ｈ２号住居址出土石器（１：４）

表４　Ｈ２号住居址出土石器観察表

掲図番号	器種	材質	長さ	幅	厚さ	重量	出土位置	備考
8	編物石	輝石 安山岩	7.5	7.3	3.7	280	Ⅲ区４層	周縁に ノッチ状加工

粒子・ローム粒子・灰を多量に含む⑦層の暗褐色土が、カマド内を埋めていた。なお、⑤層は大形白色粘土ブロックを多く含み、カマド前面を構築していた粘土が崩落した状態を示していた。

遺物

H２号住居址から出土した主要な遺物は、土師器坏・甑・甕、編物石である。

土師器坏には、１の体部が底部との境に稜をもって外反し、偏平な丸底を呈し、ヘラミガキで調整され、内面黒色処理された坏、２の稜を体中央部に有し、体部が外反する丸底の坏、３の稜を体上部に有し、口縁が直線的に外反する丸底の坏、４のヘラミガキで調整され、内外面に黒色顔料が塗布された素口縁・丸底の坏がみられた。

土師器甑では、５のヘラミガキが施され、口縁部が胴部との境に稜をもって外反する形態、６の丸底を呈し、13個の穿孔が施されている形態が検出されている。

７は土師器甕の底部破片で、ヘラミガキが施されており、球胴形を呈したものと考えられる。

８は、周辺部に敲打による剥離がみられるもので、特に両端にはノッチ状の加工が施されている。編物石と考えられようか。

以上の土器群の特徴は、古墳時代後期の土器様相を示すものと理解されよう。

以上の遺物は、集中的な分布を示さず、主に壁際から検出されたものである。床面では、南壁中央際のＰ５脇で１の坏が数片の破片の状態で検出され、南西隅では７の甕底部破片が検出されている。また、２の坏は住居中央から南壁側の床面に破片が散在していたものである。

西壁際の４層では、４の坏が北西隅で完形品で出土し、３の坏が南西隅から破片の状態で出土している。

５の甑は、Ｐ２脇の２層から出土したものである。６の甑はＰ１脇の床面近くの３層から、中央で割れた状態で検出された（写真15）。

８の編物石は、南壁際の４層の出土である。

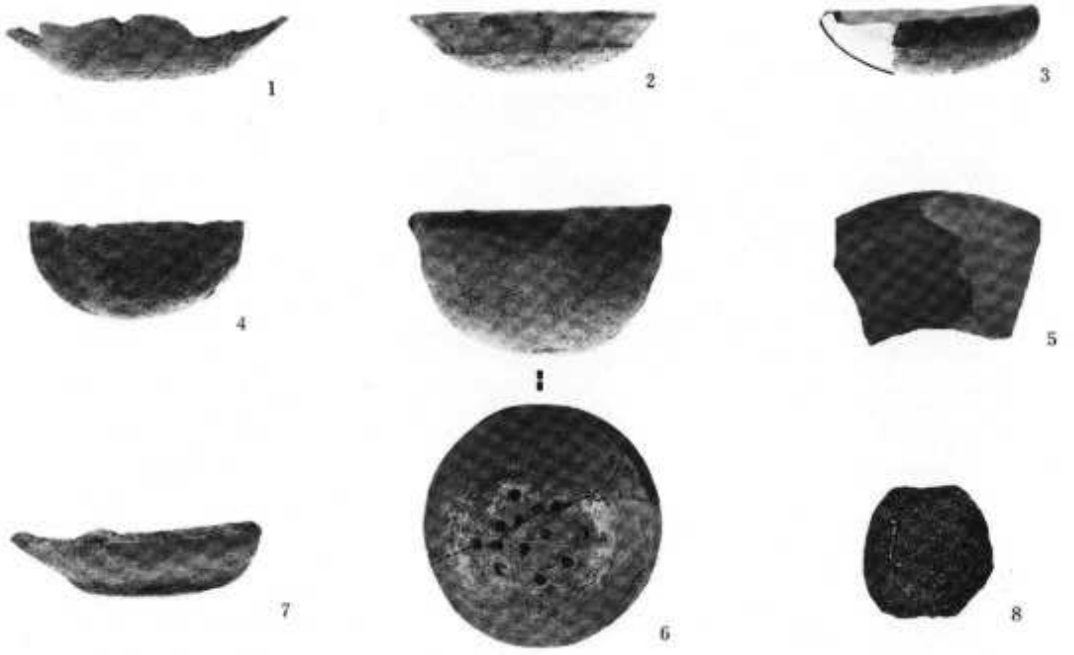


写真16　Ｈ２号住居址出土遺物

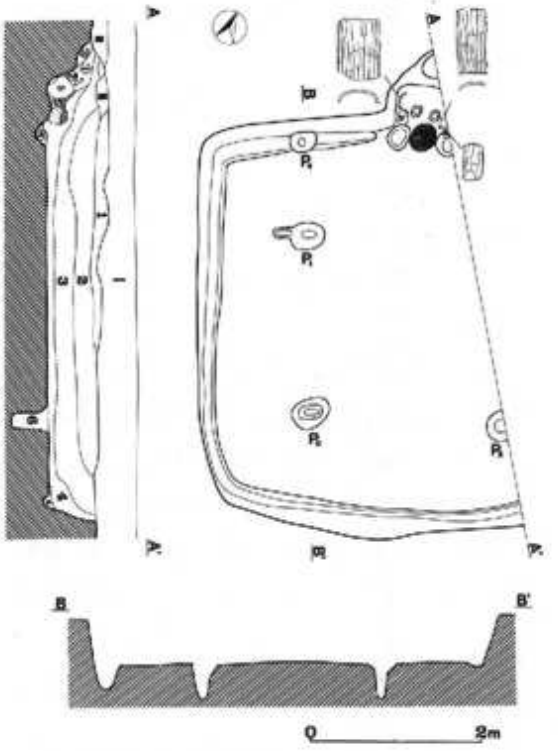
(3) H３号住居址　　奈良時代

H３号住居址の検出位置は、第Ⅱ区Eく４・５グリッドである。東壁側は発掘区域外であるため、未調査である。本址は、第Ⅲ層中から掘り込まれていたことが、Aセクションで確認されている。

平面形態は隅丸方形を呈していたと考えられ、南北5.0mを測る。確認面からの壁高は50cm程で、壁は110度程の傾斜で立ち上がる。幅10～22cm、深さ４～８cmのU字形を呈する周溝が存在し、調査範囲では壁直下を全周している。

主柱穴は４個で規則的に配されていたと考えられ、そのうちの３個が確認されている。P１は32×41cm、深さ41cm、P２は34×45cm、深さ40cm、P３は39×22cm、深さ42cmを測る。また、北壁に接して存在するP４は、P１とP２を結んだ延長線上に位置し、26×31cm、深さ27cmを測る。

覆土は、１層がロームブロックを含む暗褐色土、２層が暗褐色土、３層がパミス、ローム粒子を多量に含む褐色土、４層が暗褐色土である。また、５層の黒褐色土は周溝の覆土である。



第19図　H３号住居址実測図（１：80）

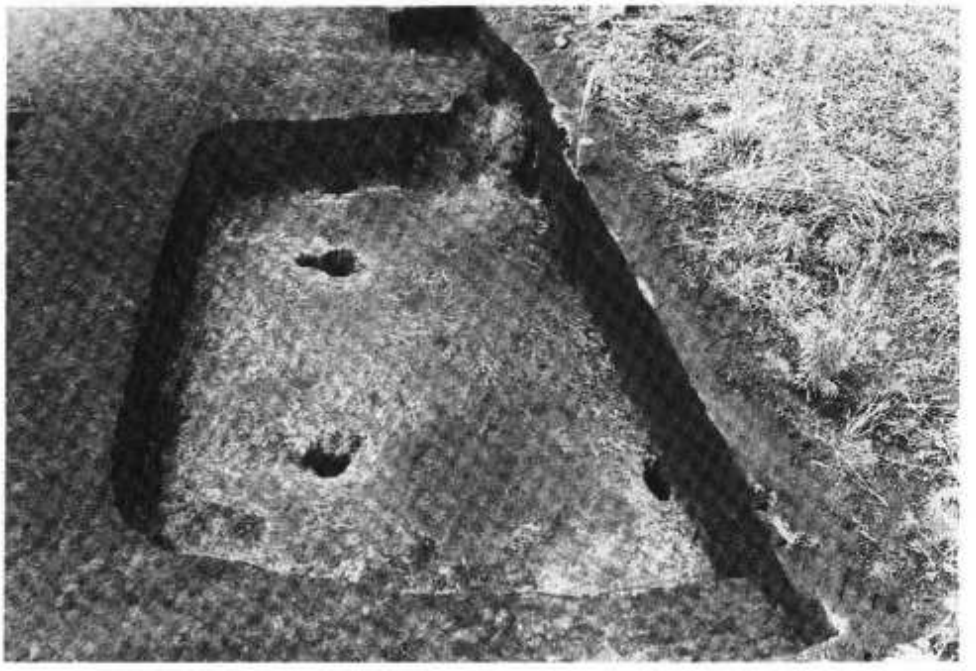


写真17　H３号住居址

カマド

構築位置は北壁中央であったと考えられるが、東側が調査区外であるため、完掘はされていない。

燃焼部は、壁外に設けられた長方形の掘り込みであったと考えられる。南北では50cm程の規模を有する。

煙道部は、燃焼部との境に段を設けて、さらに外側に掘り込まれた円形状の掘り込みと思われる。

袖部では、半截された「枕」形の土製品2個と偏平な安山岩の円礫2個が構材として用いられていた。その設置の方法は、両袖部の対称的な位置において、燃焼部壁の奥側に土製品を密着させ、その前に礫を密着させて据えるという在り方をなしていた。また、それらの前方には、ピット状の掘り方も確認された。なお、土製品の設置方法は、表面側を壁に貼り付け、右袖では、第20図1の図上の下部を上面にして直立させ、左袖では、第20図2の図上の上部を上面にして直立させていた。

火床面では、浅い皿状の掘り方が確認され、橙色粘質土（④層）が貼られていた。なお、ピット状の掘り方の覆土も④層であった。

カマド覆土は、上面に構材と考えられる橙色粘土ブロックを多量に含む褐色土（①層）、煙道部と奥壁に黄褐色土（②・③層）、前方部にロームと崩落した構材の橙色粘土ブロック層の堆積がみられた。

遺物

カマド周辺と南壁際の3・4層から多くの土器片が廃棄された状態で検出されている（写真19）。主要遺物は、「枕」形土製品、須恵器坏、土師器甕である。

1・2は、仮に「枕」形土製品と称したもので、カマドに用いられていたものである。共に半截された状態にあるが、断面には焼成以前のヘラ切りが観察され、輪積痕もみられることから、一旦は円筒状に成形し、それを裁断してから焼き上げたものと考えられる。なお、調整は縦方向のヘラケズリである。

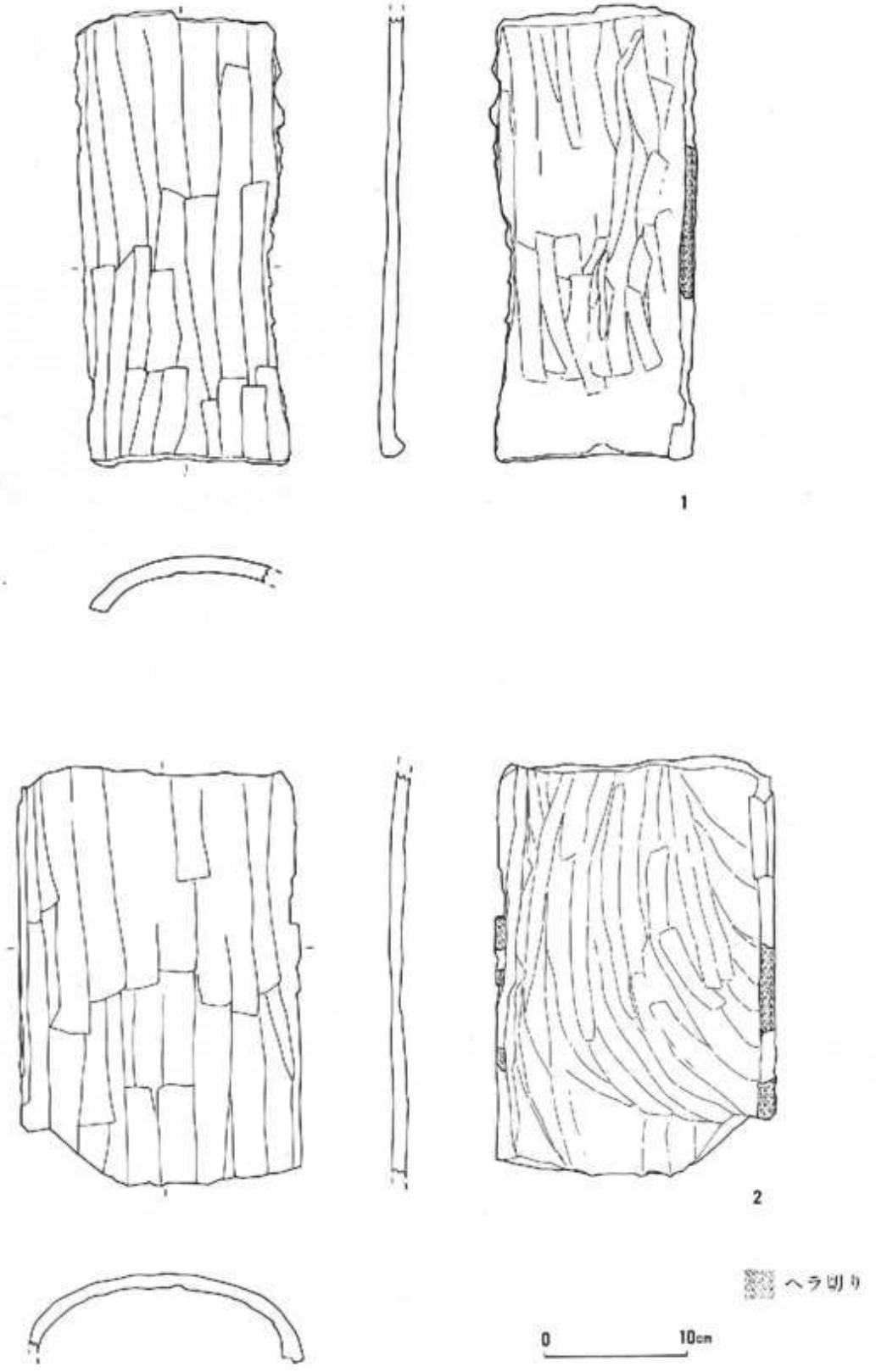
写真18　H3号住居址カマド

須恵器坏には、底部が回転ヘラケズリで調整されたもの（3）と回転糸切りによるもの（4）がみられた。3はカマド①層とⅡ区3層から検出され、4は1層の遺物である。

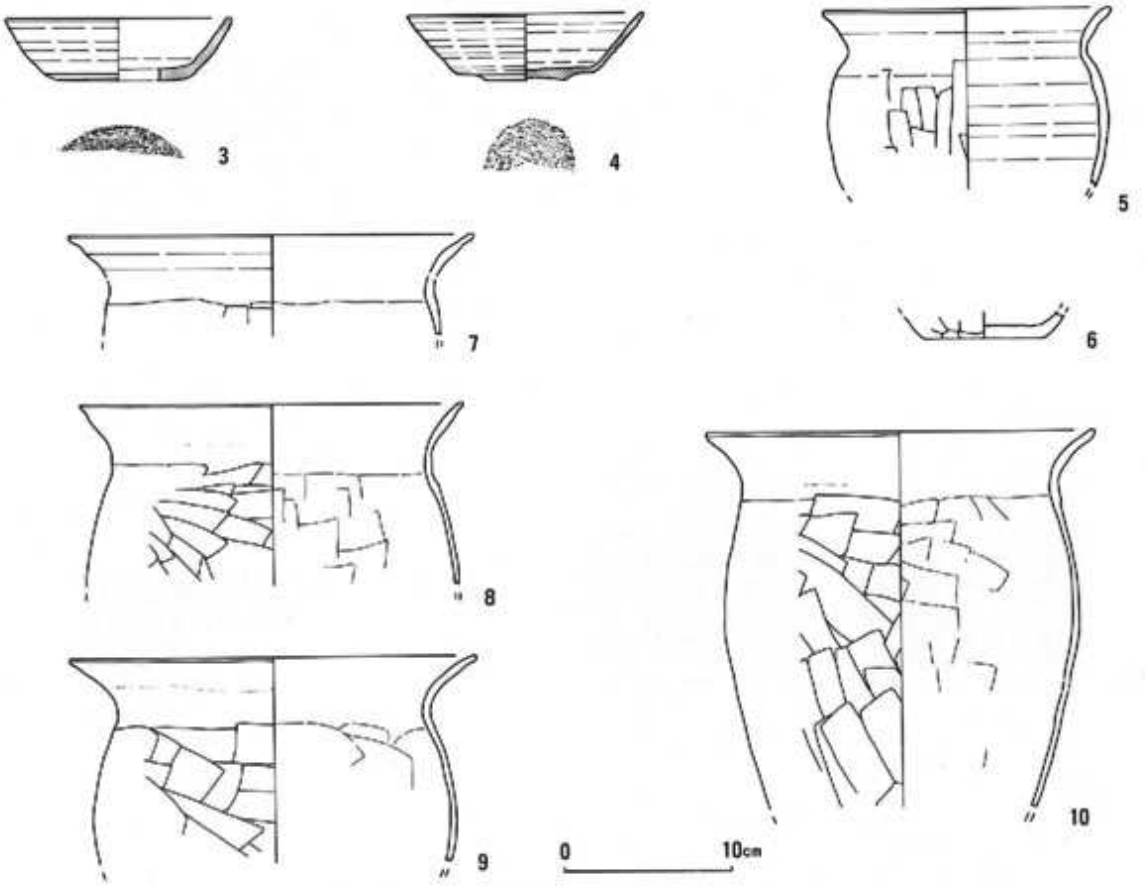
5・6は、ロクロ成形の土師器甕であり、7～10は、「く」の字状口縁を呈する土師器長胴甕である。6・7はⅡ区4層から検出され、5・8～10はカマドから出土している。

本住居址の時期は、須恵器坏（3）・土師器長胴甕の特徴と組成を基準とすれば、奈良時代前半・八世紀第Ⅱ四半期ごろと規定されよう。

写真19　H3号住居址遺物出土状態



第20図　H３号住居址出土土器Ⅰ（１：４）



第21図　H３号住居址出土土器Ⅱ（１：４）

表５　H３号住居址出土土器観察表

挿図番号	種別	器形	法量	残存	成形	調整	色調	出土位置	備考
1	土師器		— — 〈31.8〉		非ロクロ	内面：ナデ 外面：ヘラケズリ	内面:2.5YR7/6 外面:2.5YR7/6 断面:2.5YR7/6	カマド袖	
2	土師器		— — 〈29.3〉		非ロクロ	内面：ナデ 外面：ヘラケズリ後部分的にナデ	内面:10YR5/1.5/3 外面: 5YR4/6 断面: 10YR5/1	カマド袖	
3	須恵器	坏	(13.4) (8.8) 3.7	口縁1/3 底部1/4	ロクロ	→底部切り離し（切り離し方不明） 外面：底部回転ヘラケズリ	内面: 10Y8/1 外面: 10Y8/1 断面: 10Y8/1	カマド①層 Ⅱ区３層	火襷あり
4	須恵器	坏	(14.0) (4.6) 3.9	口縁1/4 底部2/3	ロクロ	→底部回転糸切り	内面: N7/0 外面: N7/0 断面: N7/0	Ⅰ区１層	火襷あり
5	土師器	甕	(17.0) — 〈10.5〉	口縁～ 胴部2/3	ロクロ	外面：胴部手持ちヘラケズリ	内面:7.5YR7/4 外面:7.5YR7/4 断面:7.5YR7/4	カマド	
6	土師器	甕	— (7.0) 〈 1.8〉	底部1/4	ロクロ	内面：胴部～底部ナデ 外面：胴部ヘラケズリ・底部ナデ	内面:7.5YR8/3 外面:7.5YR7/4 断面:7.5YR8/3	Ⅱ区４層	
7	土師器	甕	(24.0) — 〈 6.0〉	口縁1/4	非ロクロ	内面：胴部ヘラナデ 外面：胴部手持ちヘラケズリ	内面:7.5YR5/3 外面: 5YR5/4 断面:7.5YR5/3	Ⅱ区４層	
8	土師器	甕	(22.6) — 〈10.7〉	口縁1/4	非ロクロ	内面：口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ 外面：口縁ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	内面:7.5YR4/1 外面:2.5YR6/4 断面:2.5YR6/4	カマド	
9	土師器	甕	(24.0) — 〈12.1〉	口縁1/4	非ロクロ	内面：口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ 外面：口縁ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	内面:2.5YR6/6 外面: 5YR6/4 断面: 5YR6/4	カマド①層	
10	土師器	甕	(22.8) — 〈22.2〉	口縁1/4	非ロクロ	内面：口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ 外面：口縁ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	内面: 5YR6/4 外面: 5YR6/4 断面:7.5YR6/4	カマド①層	

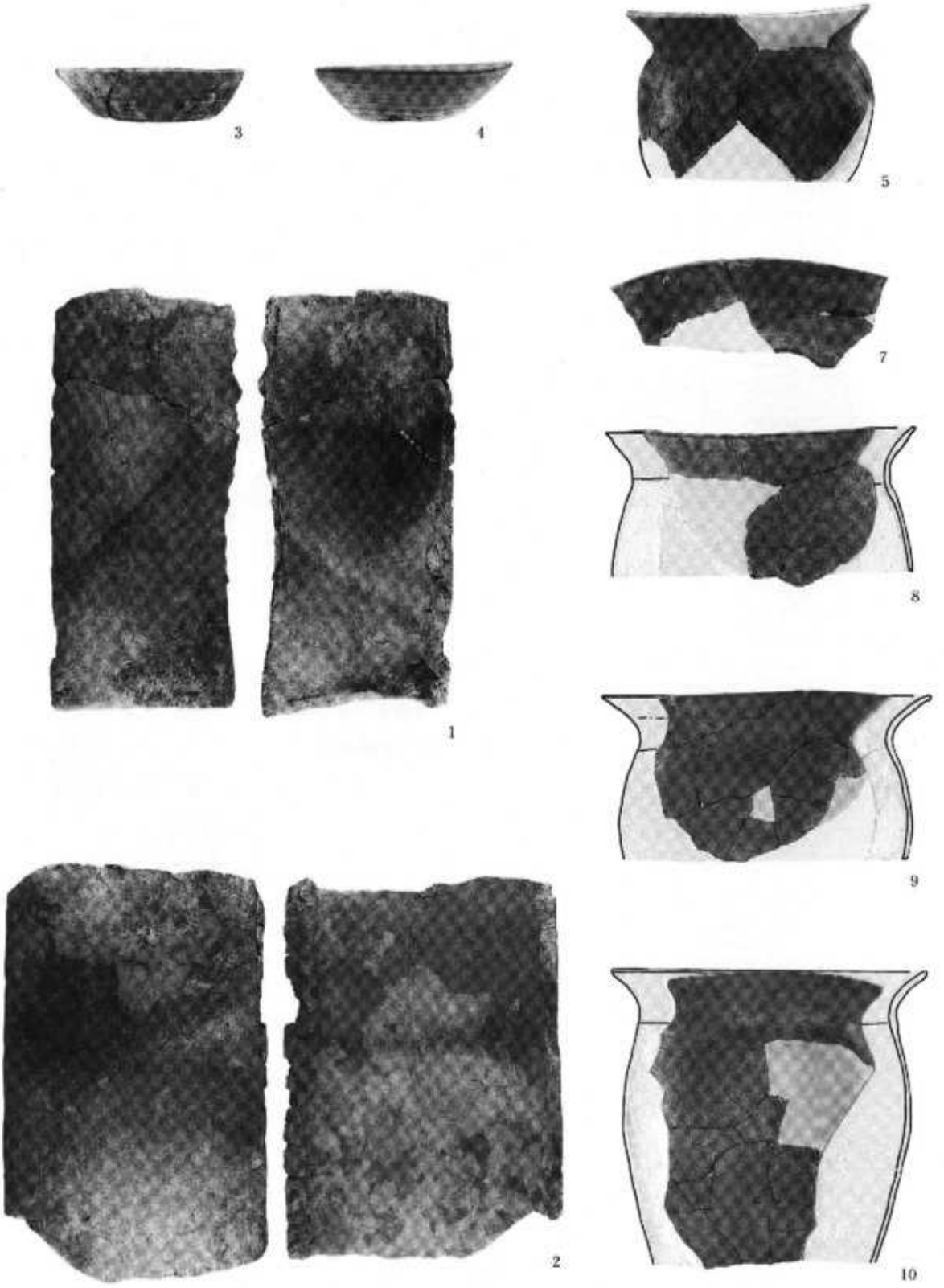


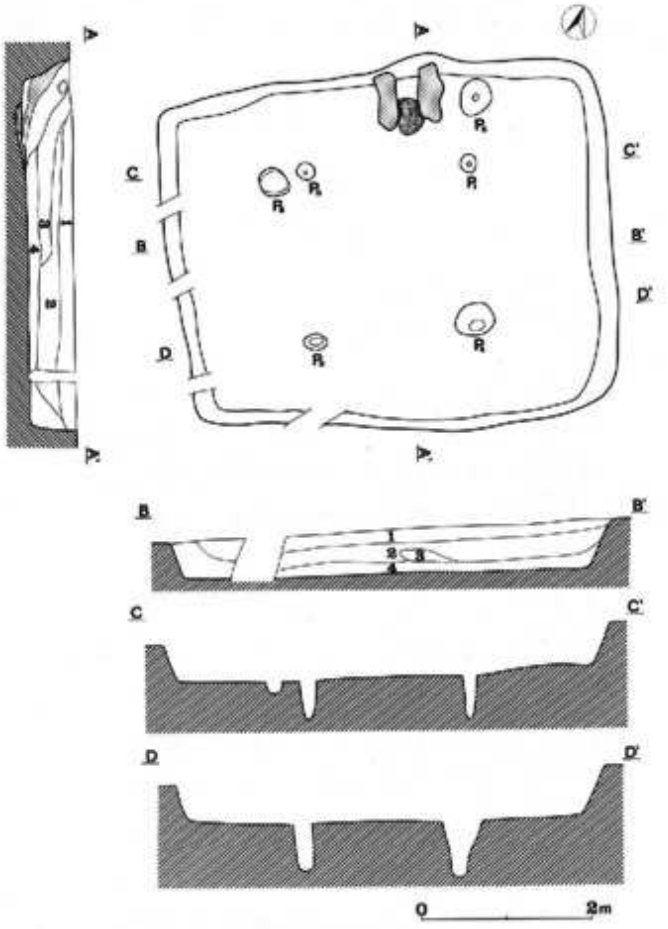
写真20　H 3 号住居址出土遺物

(4) Ｈ４号住居址　　古墳時代

Ｈ４号住居址の検出位置は、第Ⅱ区Ｅこ６・Ｊあ６グリッドである。西側の壁と床面は耕作の溝によって部分的に破壊されている。

平面形態は南北4.3m、東西5.2mの隅丸長方形を呈し、床面積は17.7㎡である。主軸方向はＮ－19°－Ｗを指す。確認面からの壁高は44～60cmであり、壁は110度程の傾斜で立ち上がる。主柱穴は４個で規模は一定していないが、規則的な配置をなす。Ｐ１は21×19cm、深さ52cm、Ｐ２は19×20cm、深さ45cm、Ｐ３は20×27cm、深さ55cm、Ｐ４は40×47cm、深さ66cmを測る。またカマド右脇に42×36cm、深さ18cmのＰ５、Ｐ２の脇に33×35cm、深さ13cmのＰ６が認められた。

覆土は、１・２層がパミスを多量に含む暗褐色土、３層がカマドから住居中央に広がる灰白色・橙色粘土粒子を含むにぶい黄褐色土、４層が壁際から床面を埋める褐色土である。



第22図　Ｈ４号住居址実測図（１：80）

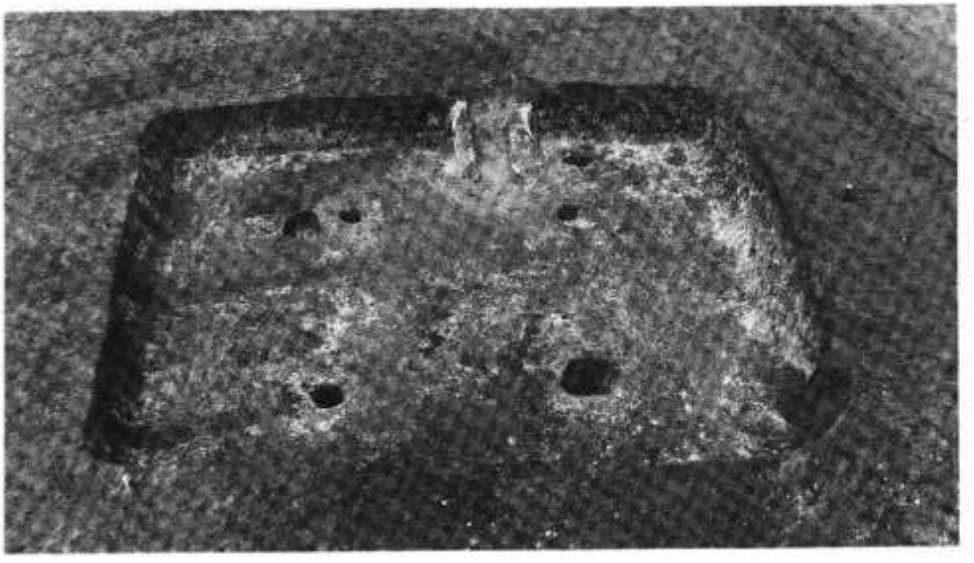


写真21　Ｈ４号住居址

カマド

北壁中央やや東側に構築されている。煙道部は壁体を僅かに掘り込んだ程度である。白色粘土、橙色粘土を構材とする両袖部の一部が残されていた。袖部では浅い円形の掘り方、火床部では楕円形の掘り方がみられ、ロームを混入する暗褐色土（④層）の堆積がみられた。

カマド覆土は、白色粘土・橙色粘土のブロックを含む黒褐色土（①層）、黒色土（②層）、崩落した構材の白色粘土・橙色粘土層、明黄褐色土（③層）である。

遺物

本住居址より検出された主要な遺物は、須恵器坏、土師器坏・甕、敲石・台石等の石器である。

1の須恵器坏は、底部切り離しが回転ヘラ切りによるものである。カマド右脇のＰ５上面から出土している。

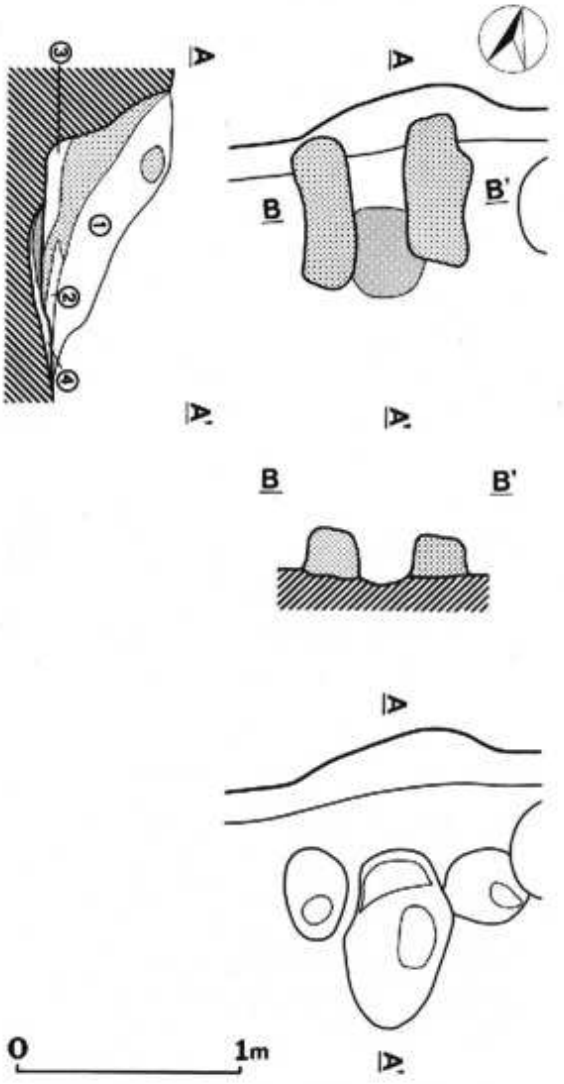
2は体部に僅かに稜を有する土師器坏で、Ⅲ区床面で検出されたものである。

3はヘラミガキが施されている土師器小形球胴甕で、東壁北側脇の床面で検出されている。

7・8は土師器長胴甕である。7は肉厚で息の長い縦方向のヘラケズリが施され、8は肉薄で「く」の字状口縁をなす。7・8は覆土中に廃棄された状態で出土したものであり、7は住居中央やや西側の2層中に倒立した状態で潰れ、8はカマド手前の3層中に横倒しの状態で潰れていた（写真25・26）。

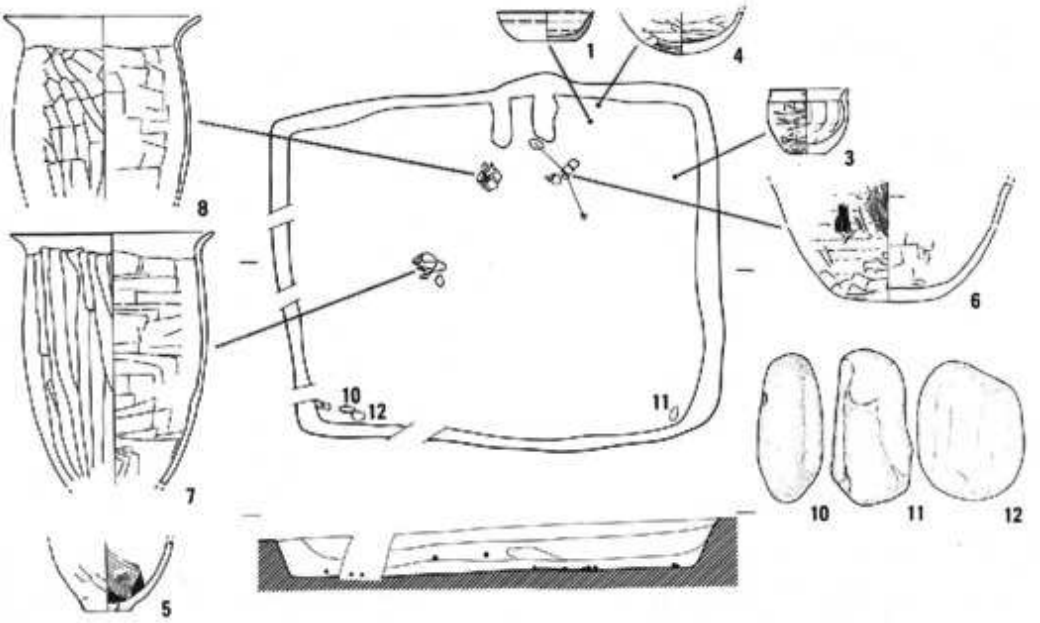
9～12はカマドないし南壁脇の床面で検出された河原石である。このうち、9は側面に敲打痕と考えられる剥落がみられることから敲石と考えられ、12は表面に擦痕がみられ、砥石ないし台石として利用されたものであろう。10・11は機能不明であるが、敲石ないし編物石として利用されたものであろうか。

以上の須恵器坏、土師器坏、土師器長胴甕の特徴と組成は、古墳時代末の土器様相として理解されよう。



第23図　Ｈ４号住居址カマド実測図（１：30）

写真22　Ｈ４号住居址カマド



第24図　H 4 号住居址遺物分布図

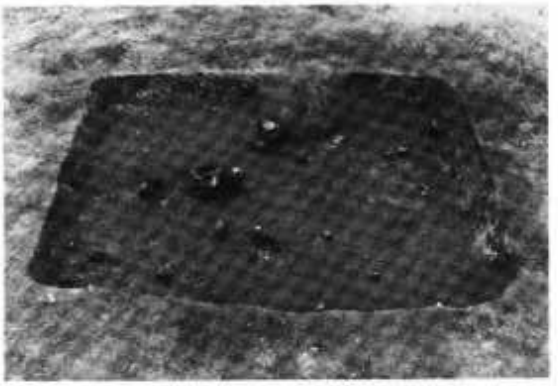


写真23　H 4 号住居址遺物出土状態

写真24　土器 3 出土状態

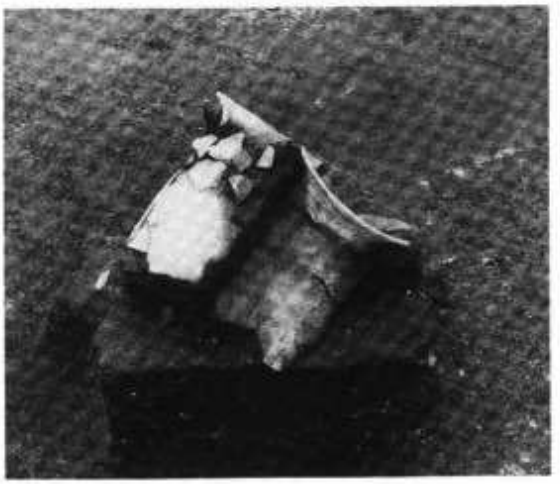
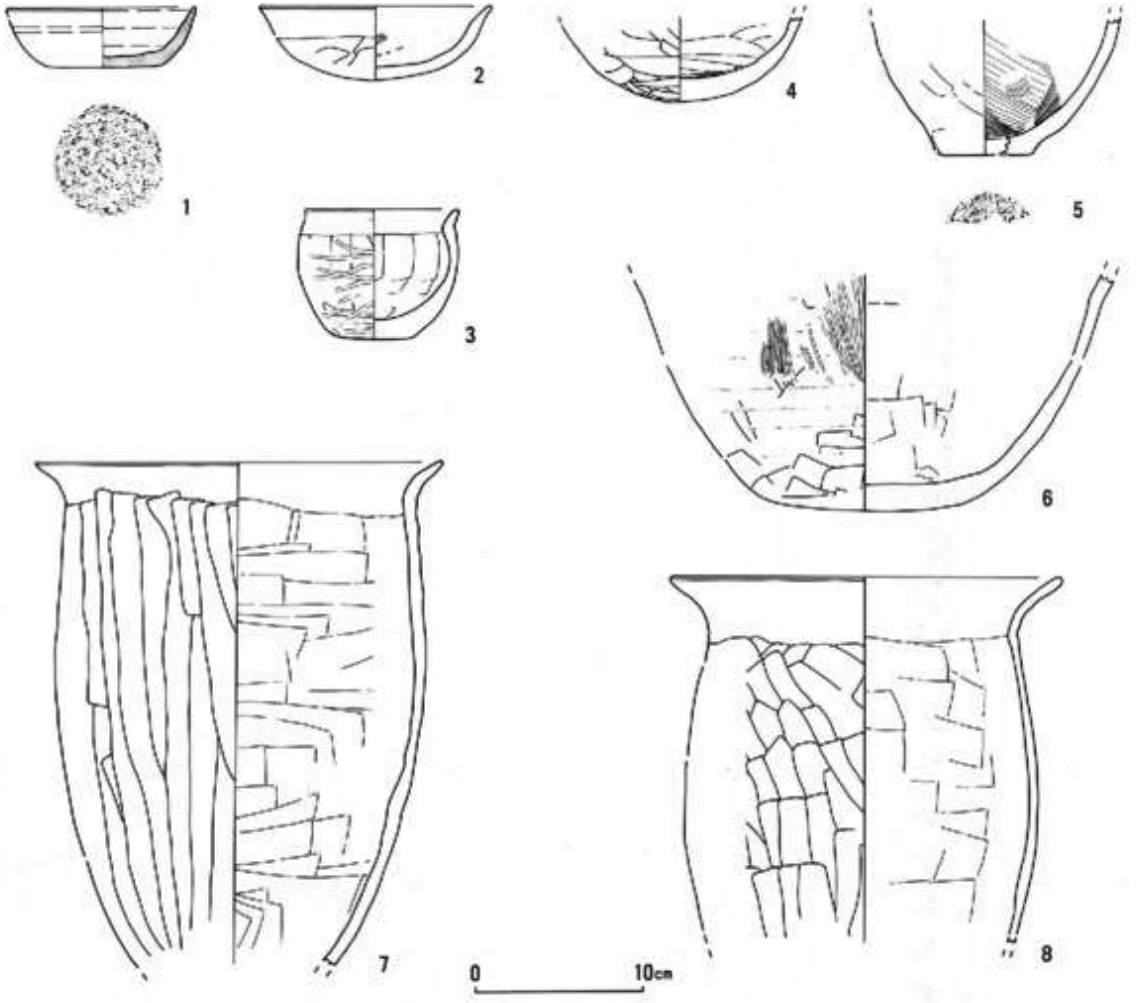


写真25　土器 8 出土状態

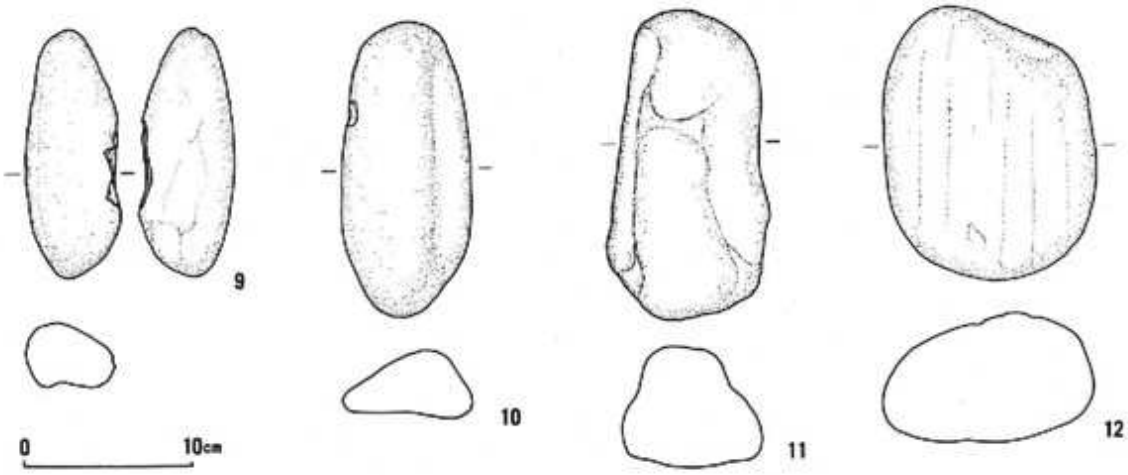
写真26　土器 7 出土状態



第25図　Ｈ４号住居址出土土器（１：４）

表６　Ｈ４号住居址出土土器観察表

挿図番号	種別	器形	法量	残存	成形	調整	色調	出土位置	備考
1	須恵器	坏	(11.3) 7.0 3.5	完形	ロクロ	→底部回転ヘラ切り	内面：7.5Y8/1 外面：7.5Y8/1 断面：7.5Y8/1	P５	
2	土師器	坏	(13.8) — 4.4	口縁～底部1/5	非ロクロ	内面：ヘラミガキ 外面：底部ヘラケズリ→口縁ヨコナデ	内面：5YR5/3 外面：5YR4/6 断面：5YR4/6	Ⅱ区床面	
3	土師器	甕	(9.3) 4.7 7.7	口縁2/3 底部完形	非ロクロ	内面：胴部～底部ヘラナデ→口縁ヨコナデ 外面：胴部～底部ヘラケズリ→口縁ヨコナデ後ヘラミガキ	内面：10YR8/4 外面：10YR8/4 断面：10YR8/4	Ⅰ区床面	
4	土師器	甕	— — (5.0)	底部完形	非ロクロ	内面：ヘラナデ 外面：ヘラケズリ	内面:7.5YR8/3 外面:2.5YR7/4 断面:7.5YR8/3	P５	
5	土師器	甕	— (5.8) (8.0)	底部1/2	非ロクロ	内面：刷毛目 外面：ナデ	内面：10YR4/1 外面:7.5YR6/3 断面:7.5YR8/3	Ⅲ区４層 Ⅱ区床面	
6	土師器	甕	— 11.0 (14.0)	底部完形	非ロクロ	内面：ヘラナデ 外面：ヘラケズリ→ヘラミガキ	内面:7.5YR7/4 外面:7.5YR7/4 断面:7.5YR7/4	Ⅰ区床面	
7	土師器	甕	24.0 — (30.0)	口縁～胴部完形	非ロクロ	内面：口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ 外面：口縁ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	内面:7.5YR6/1 外面:7.5YR7/4 断面:7.5YR7/4	Ⅲ区２層	
8	土師器	甕	23.2 — (21.5)	口縁3/4	非ロクロ	内面：口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ 外面：口縁ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	内面:7.5YR5/2 外面：5YR6/4 断面：5YR6/4	Ⅱ区３層	



第26図　H４号住居址出土石器（１：４）

表７　H４号住居址出土石器観察表

挿図番号	器種	材質	長さ	幅	厚さ	重量	出土位置	備考
9	敲石	輝石安山岩	14.9	5.7	3.9	390	カマド	側縁に敲打痕
10		石英安山岩	17.7	7.7	4.2	850	Ⅲ区床面	
11		安山岩	18.5	9.7	7.2	1580	Ⅳ区床面	
12	台石	安山岩	16.4	12.7	7.7	1960	Ⅲ区床面	表面に擦痕

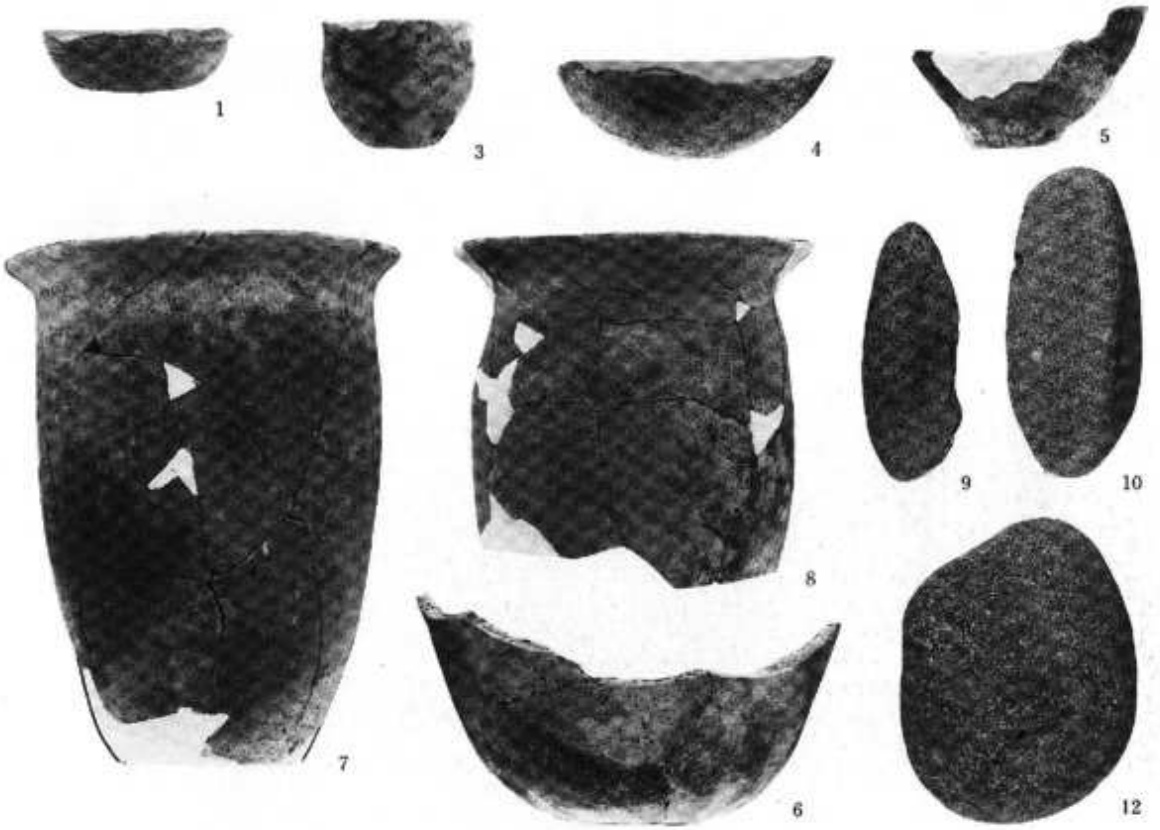


写真27　H４号住居址出土遺物